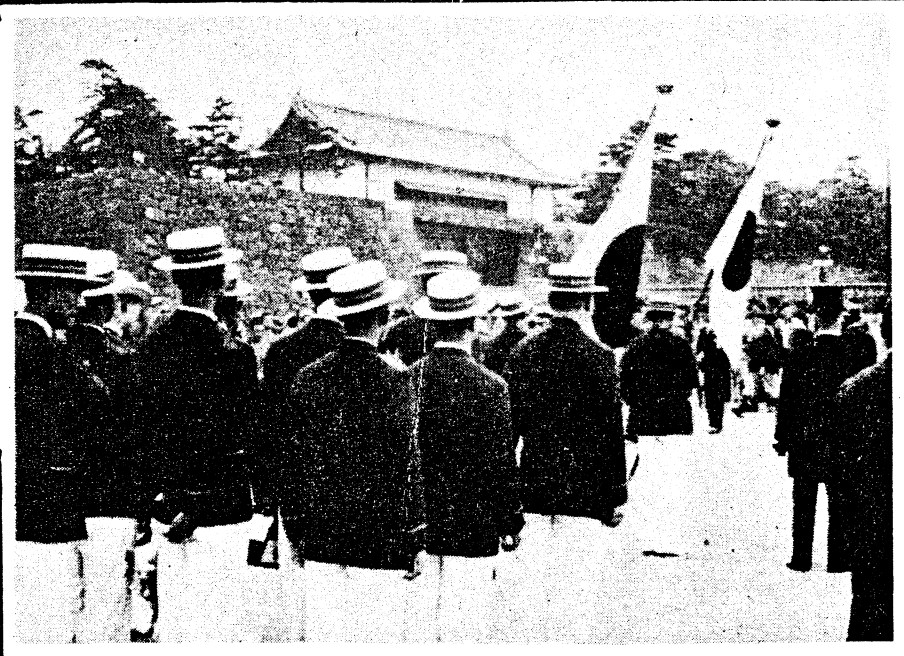


隔  
月  
發  
行

# 水 泳

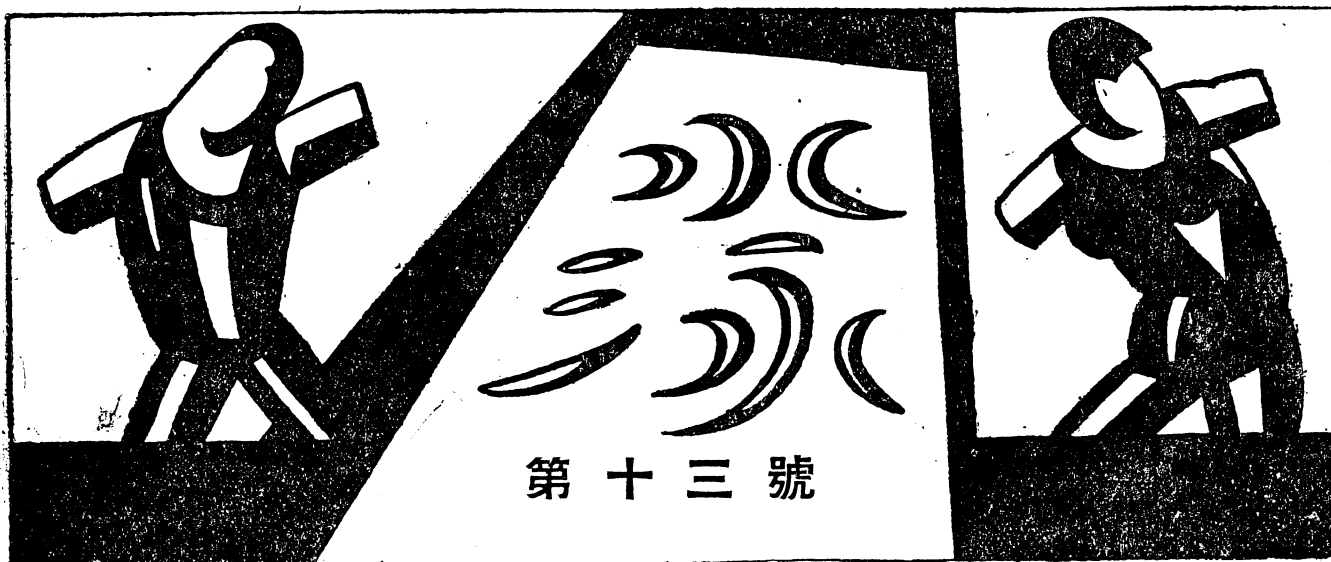


日本水上競技聯盟  
機關雜誌

1932

NO. 13

昭和七年八月發行



日本水上競技聯盟機關雜誌

目 次

スポーツ時評.....末弘 嚴 太 郎..( 3 )

標準泳法に就いて.....石 本 巳 四 雄..( 4 )

早慶對抗水上競技會.....林 忠 雄..( 12 )

オリンピック選手消息片々.....( 13 )

日本競泳發達史.....市 村 魁 山..( 18 )

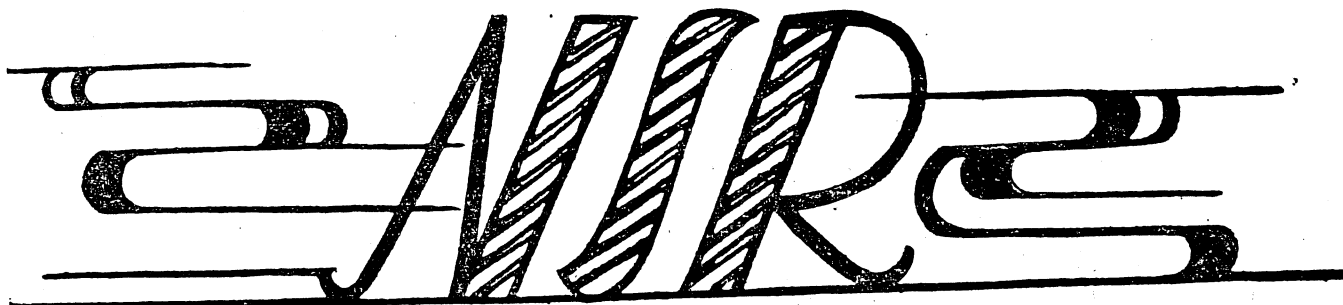
水泳講習會の概略.....小 松 崎 三 次..( 22 )

回顧三十有一年.....堀 江 耕 造..( 24 )

世界水泳展望.....飯 田 光 太 郎..( 31 )

寫 眞 說 明

征途に上る。海外だより



# 水泳

## 御詫び

本誌のため常に御配慮をいただき倍加運動に多大の御努力を賜った愛読者並に新申込者の諸君に本聯盟編輯の「水泳便覽」を贈呈することを御約束致しまして既に其期日も過ぎましたが未だ御手許に差上げることの出来ない

ことを編輯部として幾重にも御詫申上げます。「水泳便覽」は着手して見ると仲々手数がかり、それに記録ですから最正確を期する必要がある、各方面に材料を蒐集する必要があつて、その一部は既に完成してゐますが全部は今暫くの御猶豫を御願して完成したいと思ひます。

どうを御寛容の程を御願申上げます。

## オリンピック記念アルバム

水泳王國を世界スポーツ界舉つての注視の下に建設せんと雄々しくロサンゼルス

に向つた我が水泳選手の出發から、船中の生活、練習、オリンピック大會に活躍の状況を詳細に集めたアルバムを製作して、只今迄の倍加運動参加者及び之からの参加者に贈呈致すことに致します。

## 倍加運動

之までの参加者の方も

その他の講讀者諸君もどうか澤山の誌友を御誘ひ下さい。

### 方法

- 一、紹介者 住所姓名
- 二、新申込者 住所姓名
- 三、送金方法

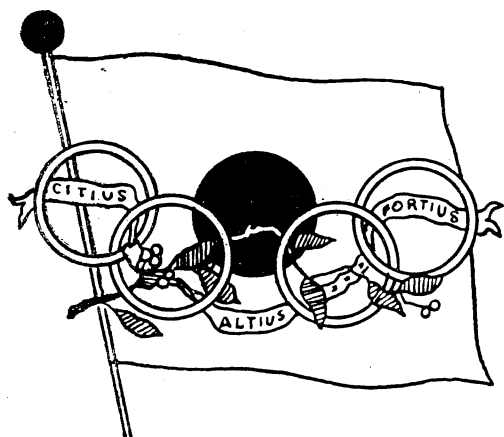
上の三項を明記して御申込み下さい。之迄も御申込み下さつて、未だ御送金のない方があります。當方では御送金下さつた時に倍加運動参加者として御取扱ひ致します。

## 「水泳」申込方法

發行	隔月(二、四、六、八、十、十二月初旬發行)
定價	一部參拾錢、一ケ年壹圓八拾錢(郵税不要)
送金	小爲替又振替(振替口座東京 39919)
宛名	東京市四谷區 明治神宮外苑水泳場 日本水上競技聯盟
注意	殘本多少あり、申込次第發送

日本水上競技聯盟

# 水 泳 時 評



## スポーツと規律

オリンピック派遣水上選手を送り出すに當つて最も愉快に感じたことは、松澤コーチの行き届いた統率の下に選手一同が極めて規律立つた行動を示したことである。新聞紙の傳へる所によると、船中に於ても又上陸後に於てもこの規律立つた行動は少からず一般の注意を惹いたやうである。

従來一般に吾國の選手には規律がないと言はれてゐた。殊にチームをなして遠征する場合の如き屢々此缺點の爲めに少なからざる支障を生じだと言はれてゐる。之に比べると昨夏キツファス氏に率ゐられて來た米國の水泳チームは極めて規律立つたものであつた。コーチの命令一下恰も其手足の如くに動く選手を吾々は心から羨しく思つたのである。

所が今吾々はあの米國チームに優るとも劣らない立派な規律をもつ水泳チームを有するに至つた。私は此事を獨り吾國水泳界乃至運動競技界一般の爲めのみならず、吾國青年一般の名譽の爲めに心から喜ぶものである。然らばどうして吾々はかくまで見事に統率されたチームを編成することに成功し得たか。私は此理由を説明して、吾々水上競技聯盟最近の行動が極めてよく團體統率の原理に合致してゐたからだと言ひたい。聯盟の幹部は專制君主の如き超越的權威を要求しない、選手に對しても亦奴隸の如き服従を要求しない。オリンピック第一主義を標榜しつゝ、外に對して極力強く戦ひ得るが爲めに、内部に於ける些末の利益を出來得る限り犠牲に供した。選手の爲めに、強い選手を作る爲めに、そしてオリンピックに優勝する爲めに、聯盟關係者のすべてが上下の別なく地方の區別もなく一致協力し得たことこそ、今や選手をして眞に心から聯盟の統制に服しつゝ聯盟の爲めに吾國日本の爲めに戦はう

## 日本水上競技聯盟會長

末 弘 嚴 太 郎

と言ふ固い決心を抱かしむるに到つた根本的原因である。そうして選手を初め聯盟關係者一同がこうした固い決心をもつてゐればこそ、すべてが小我を殺して大我に歸一する、統率と選律とが生まれる蓋し當然の事と言はねばならない。

## 常識の問題

日本青年の體力と智力と意氣とを世界に示すべき重要な使命をもつて出發せむとする吾々のオリンピック遠征軍の行を壯にする爲めに催さるべき選手送別會に、偶々同じく遠征の目的を以て吾國を通過する印度ホッケー・チームを招待して歓迎の意を表せむとするが如き無禮を取てする體協常務者の愚を誰れが笑はずに居られやう。誰れが憤らずに居られやう。私は決して印度チームの歓迎それ自身を無條件に不可なりとするのではない。しかし事には自ら輕重がある。國家的意義をもつた最も重要な催しと單なる國際儀禮とを一所にするやうでは到底吾々の國民的常識が我慢出來ないのである。

印度チームを歓迎する以上歓迎の辭が英語を以て述べらるべきは當然である。だから私は決して岸會長の英語を以てする歓迎の辭を不當なりとするものではない。之に反して當日主催者側を代表して「送別の辭」を述べべき唯一の人であつた嘉納名譽會長が英語で送別の辭を述べた其沒常識と不見識とを私は心から輕蔑するのである。嘉納氏は初め先づ三分間程日本語で選手を送る主旨の言葉を述べた後突然何やら英語でしやべり初めた。私には何を言はれたのかよく理解出來なかつたが、次第書によつて同氏に課せられた仕事は「送別の辭」であつたのだから、多分送別の辭の續きを述べられたのだと想像してゐる。同氏の考では恐らく席上に英米兩國の大使も來てゐるから英語で何か言はれば失禮だ位に考へた

のだと思ふが、日本人が而かも平素青人の指導者として自他共に許してゐる同氏が英語で送別の辭を述べるに至つては言語同斷、殆ど評すべき言葉をすら見出し得ない。此沒常識を誰れが笑はずにゐられるか。

今度のオリムピック大會に選手を派遣したについて吾々の永く記念すべき事柄の一は畏くも宮内省から金一萬圓の下賜金を賜はつたことである。體協が此下賜金で選手役員一同にブレーザーを着づゝを作り與へたのは大によろしい。しかし、印チームの歓迎會を兼ねた選手送別會の席上、而かも米英兩國大使の挨拶や兩國々歌の吹奏等の行はれた後で、此大事な御下賜品を授與するとは一體何事であるか。こんな沒常識極まるプログラムを作つて置きながら、

非難を受けて尙容易に其非を悟らないやうなものが吾々日本人の内におゐるかと思ふと、私は心から情なくなる。貴い日本帝國の將來を荷負ふべき青年を指導する人々はこう言ふ點にこそ最も意を用るねばならないのであつて、日本國民の常識に正に此事を要求するのである。

今の體協幹部の中にはスポーツを國際親善の道具に使はうとしてゐる人が少くない。吾々は決してスポーツを通して國際親善の結果が得られることを不都合だと言ふものではない。しかもスポーツを國際親善の道具に使はようとする人々の態度を以て根本的にスポーツ精神を冒瀆するものだとするものである。體協よ一日も速にスポーツ本位に歸れ。スポーツマンの常識は正に此事を要求してゐる。

## 標準泳法に就て 石本巳四雄

從來日本に行はれた泳法は當時の要求に従つて出来上つたものである事は今日なほ保存されて居る各流派の泳法を見れば自ら納得出来るものである。即ち一流派で其の傳統が正しく傳へられて居れば居るだけ、吾々は封建時代の要求を窺ひ知る事が出来るのである。何れの流儀においても其の泳法の制定は徳川中期以後であるからである。

元來、水泳の多くは當時各藩における水軍に附隨した一つの技術として發達した關係上、敵前であると云ふ觀念から出發して居ると同時に、君の御前であると云ふ事を高調して居る事が特に目立つのである。明治時代に入ると藩が廢せられ水泳が水軍の一部である事も主君の御前で演ずる事も無くなると實質上の意義は當然改められなければならず、其所に何者かの對象を必要とする事は當然の成り行きであつたのである。即ち時代の推移は水泳をもて重大な岐路に立たしめたのである。

數多き流派の中には諸藩の庇護を失ふと同時に其のまゝ傳統をも失つて全く末技に拘泥し所謂曲藝泳きに墮落して仕舞つたものもあるが、一方には從來の傳統を其のまゝ精神上の鍛練に資して専ら精進を續行したのものもある。なほ此所に特筆すべき事は明治時代において從來の流儀(水府流)に飽き足らずして各流の泳法を研究し其の長所を巧みに取り入れ當時少くとも日本全國に普及すべき天職を自覺して水府流太田派の制定が行はれた事であつて其の主張泳法は日本水泳術なる刊行本によつて窺ふ事が出来る

以上の如く明治時代においては水泳の對象は已に

變じて居り、稍すると藝當化したのは止むを得ざる事となつたが、一方に水泳の効用を説いて其の宣傳が行はれる様にもなつた。即ち水泳を吾々の生活に役立たせやうと云ふのである。即ち水泳を知つて居れば水に溺れないから、泳ぎを習はなければならぬと云ふのである。此の事は確かに事實として主張し得るには相違ないが、從來の水泳においても單に溺れない事を目的として居たのでなく少くとも水泳の上達を齎す何者かの標準を置いて居たのである。又一方には泳が體育上宜敷いと云ふ宣傳もあつた確かに水泳をなす事によつて體を丈夫にする事は出来るが、體を丈夫にする事が、水泳の結局の目的ではない。此れは水泳に限つた事ではなく、何にせよ斯く斯くの利益があるから稽古をしると云ふ事は實は甚だ情ない事であつて、水泳本來の立場に對して全く相反した結着點に到達するのである。以上の主張を極言すると水泳は虚弱者のなすべきものであつて健康者には必要なきものであると云ふ議論も生ずるであらう。吾々は水泳自體の愉快さに浸るを目的として泳ぐのであつて其の結果生ずる報酬をあてにして居るものではない。即ち水泳が護身上、或ひは體育上有効であると云ふ事は水泳に附隨して得られる些細の效果であつて、此れを方便と承知して口にするは未だしも、此れを振り翳して邁進するならば多くの矛盾と不合理の結果とを招く外はない。而して以上の立場を以て進む場合吾々の第一に相遇する矛盾は水泳の攻拙を如何に解釋すると云ふ事である。巧拙を大別すれば速さと形の美しさとの問題と

なるが、速さの問題は説明が不要であらう。後者については無駄のない調つた力強い泳ぎは常に吾々に美感を興へるものである。以上の事實の解決が興へられざる限り水泳の眞の對象は結局、水上明月を追ふ徒勞を繰返すのみであらう。

明治時代になつて水泳の一要素として發達したものは實に競技である。競技は正に巧拙を相互的に或ひは數字的に表はす方法である。然も此所に新泳法クロールが行はれ初めた事から水泳競技に一新面を齎す事となり、水泳に對する吾々の對象も自ら確立するに至つた。クロールの發達は在來の所謂型泳ぎの恐怖となり、「クロールは日本在來の泳法を破壊する」と叫んだ者もあつた。然しクロールの出現によつて破壊される泳法であつたならば、それは結局大したものでは無かつたのである。而して又在來の泳法が水泳の全部であると云ふ先入主的觀念に災された結着である。云ひかへれば在來の泳法に美しさの高調のあつた事を忘れた結果であるとも云へる。

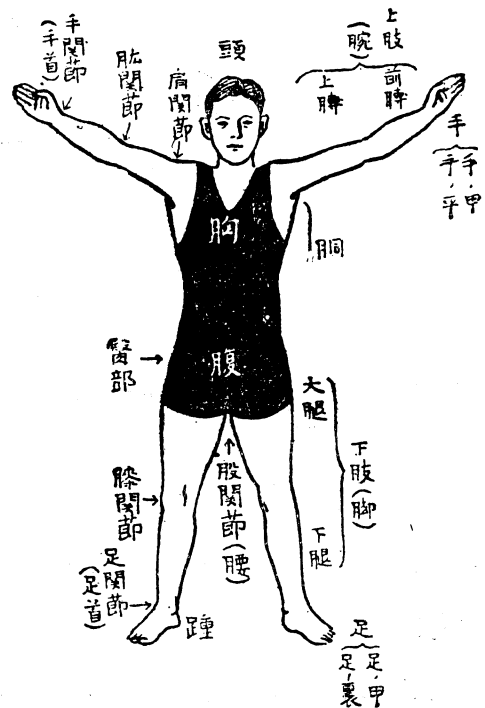
流派の泳法は其の時代として最も適したものであつた事を信ずる事が出来るが、今日の水泳は吾々今日の生活の延長である事を念頭に置いて出發しなければならない。吾々の社會が進歩して行くのに水泳獨りが止つて居るとすれば其れは反つて不思議な現象と云はなければならない。各時代の要求に即して内容を充實して來た水泳が今日標準とすべき泳法の撰定を怠つて居た事は寧ろ迂遠の誹りを甘んじなければならぬ次第である。

一昨年、昨年行はれた文部省主催水泳指導者講習會において水上競技聯盟は指導實施上の諸問題に接觸する機會を得、續いて昨秋來委員によつて、實用を主とした標準となるべき泳法の選定が行はれ、その定義解説が施されたのである。標準泳法は全く吾々の生活の水中への延長であつて、存來の曲藝的水泳を排し最も自由な考の下に組織立てられたものである。

標準泳法は先ず足の動作に注意して四別される。即ちバタ足、扇足、蛙足、踏足である。足の動作によつて自ら體形は決定する事は明かであらう。單に體形によつて泳を分類しても實質上の識別は反つて混亂する恐れがある。足の動作四種類を習得する事によつて今日行はれて居る如何なる泳ぎにも到達し得るのである。足の動作に従つて手は調子よく水を搔く事が要求され、かくて體全體として充分具つた泳法が習得される爲に解説説明が附せられたのである。要するに吾々は標準泳法を以て今日の最も合理的の泳法として此れを全國に普及し、水泳の向

上發達を期すると同時に將來に對しては泳法の變遷に伴つて自由に變更さるべきものである事を信じ、水泳の發達に資する事を充分覺悟して居る次第である。

## 身體各部の名稱



## 方向の呼方

上下、左、右、背腹前後は次の如く定む。

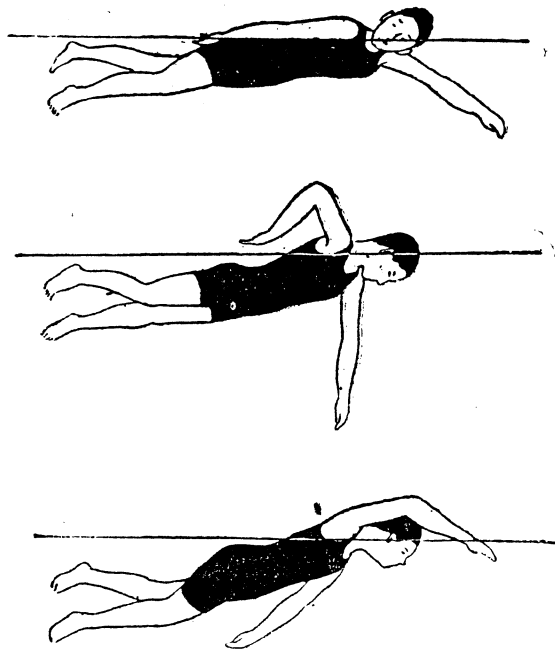
- 一 上下は重力の方向による。
- 二 左右 } は體を基準とす。
- 背腹 }
- 三 前後は進行方向による。

## 足の動作

- 一 **バタ足** 體を伸して水面に俯し兩脚を上下し交互に打込む。但し膝を甚しく屈けざる事。
- 二 **扇足** 體を伸して水面に横臥し膝を屈け乍ら兩脚を縮め上の脚を背側に開き、水を扇りながら兩脚を伸し揃へる。
- 三 **蛙足** 體を伸して水面に俯し踵を甚しく離すことなく太腿を左右に開きながら膝を屈け脚を充分に縮めたる後、足を外方に開き水を踏ながら兩脚を伸し合せる。
- 四 **踏足** 上體を直立し、太腿を左右に開き兩脚を交互に外上方に水を踏む、踏みたる足は稍前方を経て元の位置に戻し連續運動を爲す。

# 泳法種目及び説明

## 一、クロール



體を伸し水面に俯し、バタ足を行ひ交互に手を掻き抜く、速き事を主とす。

### 一 姿勢

身體を樂に伸して腰は屈める事なく水面に俯臥する。

### 二 手の使ひ方

手を肩の前方へ突込む場合に人差指の邊より水面下相當の深さに突込むと同時に其のまゝ手は常に肩の進行鉛直面を通る様にして水を後方へ壓す氣持で後方へ掻く、此の時體は動搖(ローリング)しても手は常に肩の進行鉛直面を通る様に掻く事が必要である。指は軽く合せ特に拇指を付ける事手の平を斜に向けぬ事、肘を手首より後方に引かぬ事等に注意し腕は水中で強いて伸す必要はない。手は掻き終ると直に腕の力を抜き動搖(ローリング)を出来るだけせずに肩關節を手が水に觸れぬ程度に上げて空中を通りて元の位置に返す。尙一方の手が掻き終り元に返す時に他方の手は己に水中にて接き始める様になる。

### 三 足の使ひ方

足はバタ足を使用し兩足の間は梅措のふれ合はぬ程度に狭めて上下する。足の動作は必ず手の動作と調子を合せる事を忘れてはならぬ、又足の上下の開きを大々くする事は必しも足の強いことを意味するものでなく、要點は水面下できび〜足を使ふ事にある。但し膝、足首の關節は樂にしてお

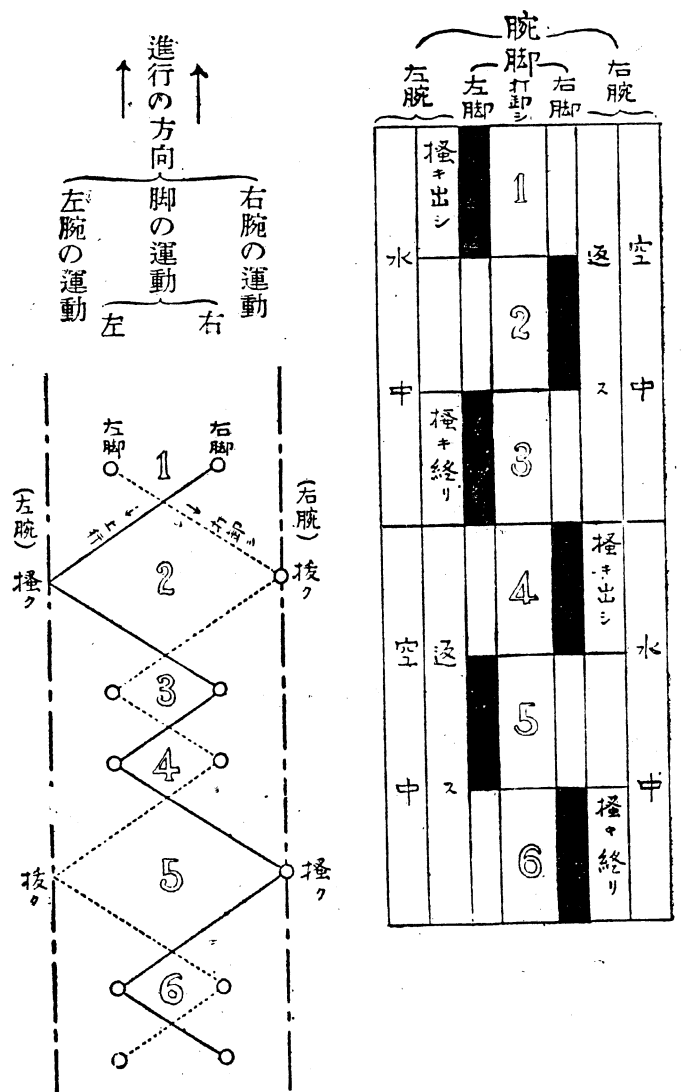
く必要がある。

## 四 腕と脚との運動關係

右(左)の手の掻き初めには(右)左足の打込を以つて始まり、兩腕を抜く間に六回の足の打込を了する關係にある。

## 五 呼吸法

呼吸は何れか一方の手の掻き終ると同時に其の間に首のみを廻して口から吸ひ直ちに元の姿勢に復し水中において鼻と口から充分に出す。口先丈けで呼吸せず腹の底まで吸ふこと、呼吸する爲に前方に顔を上げぬこと、又身體を一方に偏らせぬことに注意し左右とも自由に来る様に練習することが望ましい。

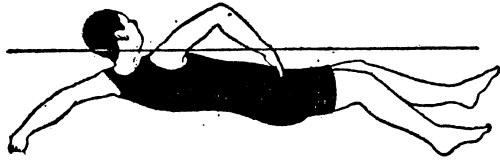
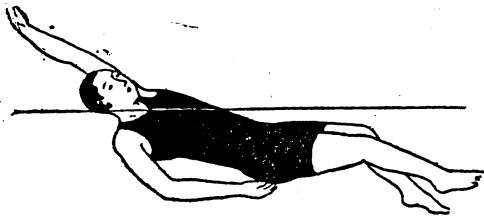


## 二、背泳

體を伸し水面に仰臥しバタ足を行ひ交互に手を掻き抜く、但し此場合バタ足は足の甲にて水を持あげる如くなす。

## 一 姿勢

クロールを仰向にした関係にある頭は常に引付けて置き、眼は後方を見る、腰は落ぬ様心掛ける。

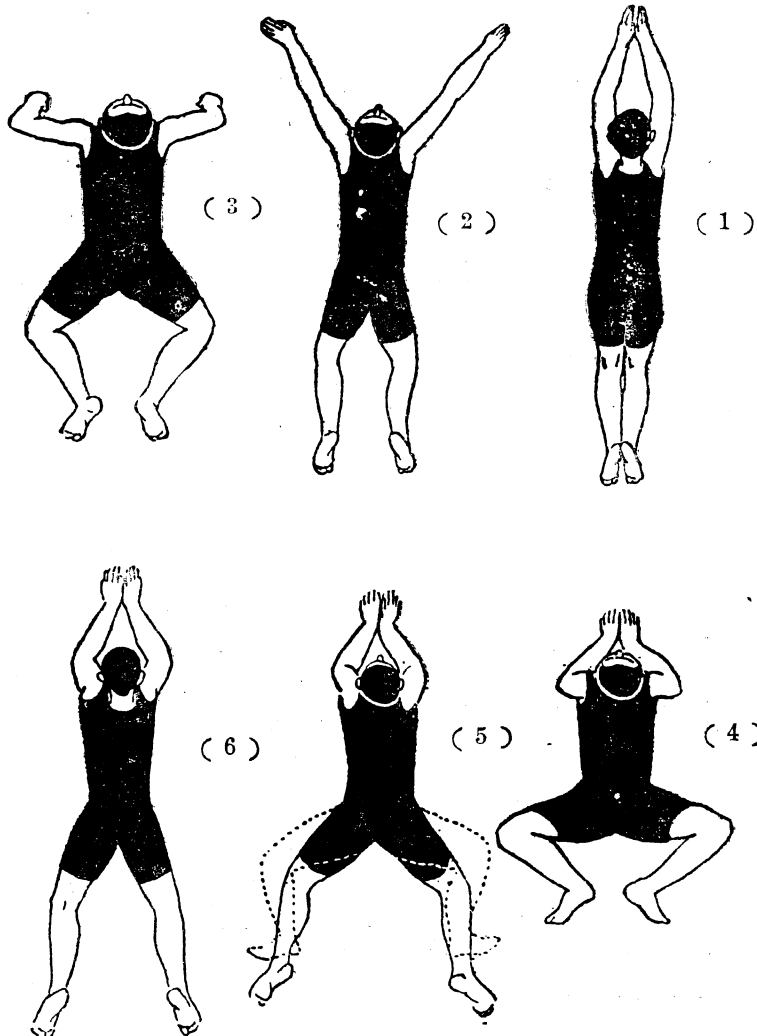


## 二 手の使ひ方

手は肩先の稍外側へ小指より入れ直に眞横を深めに搔く、此の時掌は水を後方におす氣持で搔く事又水中では腕を強いて伸す必要のないことはクロールの場合と同様である。搔き終りたる時は直に腕の力を抜き、肘が水に觸れぬ程度に上げて元の位時置に返す、此の肩關節を水上に上げるため體が動揺するが此れは差支へない。尙一方の手が搔き終り元に返す時に他方の手が水を搔き始める様にする事はクロールの場合と同様である。

## 三 足の使ひ方

足はバタ足と同じ様な動作であるが



背泳に於てはクロールと反對に足を上げる時即ち足の甲で水を持上げる時が有効である。又脚の諸關節は特に藥にすることはクロールの場合と同様大切である。

## 四 腕と脚との關係

クロールの場合と同様。

## 五 呼吸

呼吸は手足の動作と調子を合せ主として口でなす事。

## 三、平 泳

體を下向にし兩手を揃へて前方に出し左右に開きつゝ後方に搔く足は蛙足を使用す。

### 一 手の使ひ方

在來の平泳と類似の泳法を用ふるも競泳々法としては速さを主とする爲めに、手は浮きをとるよりは搔き進むことに重きを置く。手は眞横迄かゝり適當の所にて肘から胸に引付け、手先は胸の前に揃へる。手を前に出す時には水の抵抗を出来る丈け少くするに注意する。

### 二 足の使ひ方

足は蛙足を使用す。

### 三 手と脚との關係

手を搔寄せると同時に足を縮め、足を蹴る時に手を前方に突き出す。但し前方においては止める事なく直ちに水を搔き出す。

### 四 呼吸法

呼吸は手を搔きつける時、顔を上げ短時間に吸ふ。足が水を蹴る時は顔を水中に入れ、口及び鼻より出す。顔は呼吸する爲め止むを得ず上げる程度に止む可きである。要するに胸を張る事が宜敷くない。



#### 四、伸 泳

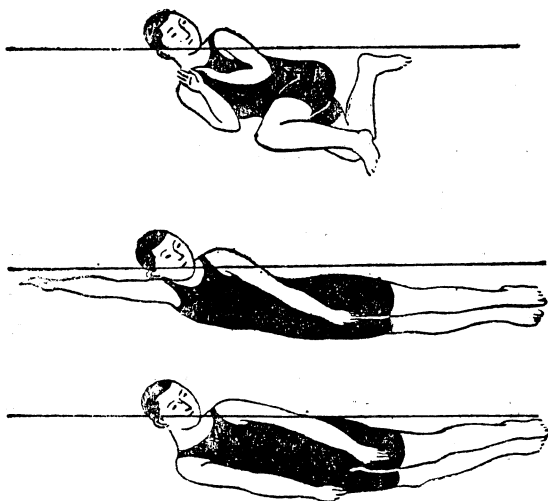
水面に横臥し扇足を使用し手は抜かずして水を掻く。

##### 一 姿勢

體を真直に伸して水を枕にする様な氣持で、水上に横臥し兩足先は真直に伸し並べる。

##### 二 動作

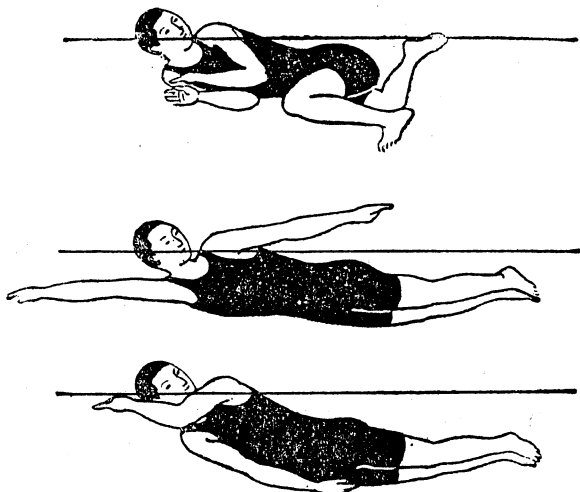
前述の體形から扇足前半の動作をなす間に上方の



手は肱を體に添へ拇指にて體を摩り上げる心地で下肩と頸との中間に運び手の平を に向け下方の手は肱を屈けつゝ指先を腹部より胸部を摩り上げる心地で下肩に運ぶ此れを動作の起點となす。

手の搏き方

扇足後半の動作即ち水を扇る時上方の手にて水を



後下方に掻き、内股に收め、下方の手は頭前に伸し水を後下方に半圓形に掻き下方の足の外股に收める。下方の水の掻き方は扇足にて體の進行が行はれたるを助長する 如く強く掻く事が必要であ

る。此の場合體特に頭部か上下動せぬ様に掻く。こと又下方を一度外股に收めることなくやゝ後れて軽く掻き途中より原位置にもどす方法もある。

#### 三 呼吸法

呼吸は手胸の動作と調子を合せること、扇足の後半動作を行ふ時息を吐き、進みつゝある間に靜かに吸ひ込む事が宜敷い。

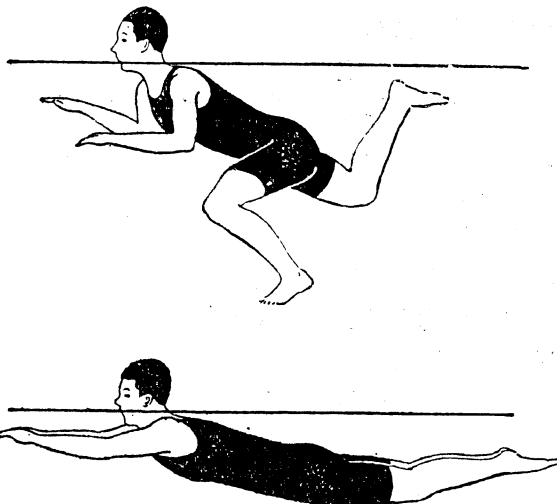
#### 五 片 拔 手

水面に横臥し扇足を使用し、上方の手は水を掻き抜き下手の手は抜かずして掻く。

前同様の姿勢で扇足後半の動作をなす時に上方の手は内股に收めずして水面上に掻き抜き下方の手は頭前に伸し外肢に掻き收める。其の間に掻き抜きし上方の手を水面に沿ふて肩先に運び目尻の邊から水中に入れ伸泳の動作の起點を経て次の動作に移る。但し上方の手が原置に戻る時下方の手は伸泳と同様扇足と調子をよく合せ水を強く掻く。

#### 六、扇 平 泳

體を下向にし前方に顔を向け、手は前方に伸して左右に水を掻く。

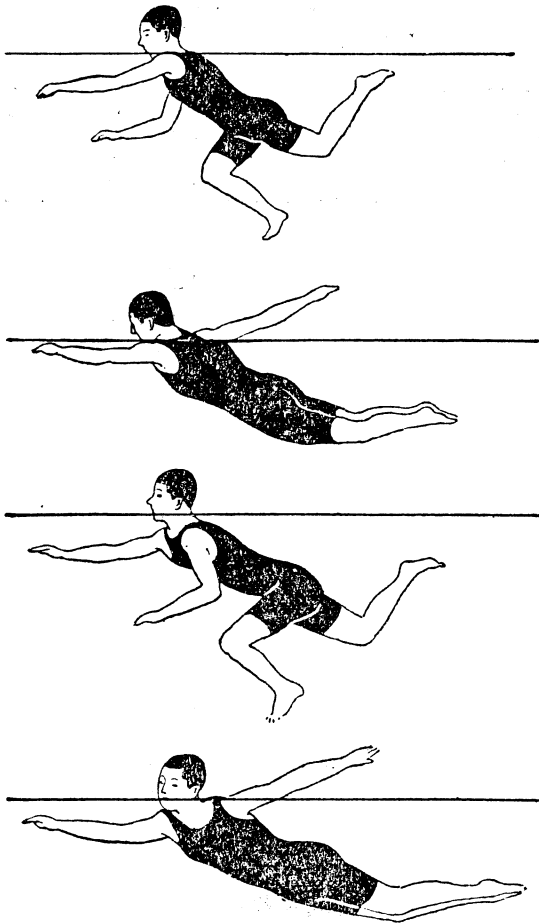


體を水面に俯臥し頭は前方に向け、半身となり頸を水に浸し兩手を前に伸し前方水面下二、三寸位の處に手の平を下向きに置く扇足前半の動作をなすと同時に水を撫する氣持で左右に半圓形を畫き浮を取りつゝ胸の前に持て來る、扇足後半の動作で兩手を前方に伸して前進す。

#### 七、拔 手

體を下向にし前方に顔を向け左下、右下の扇足を交互に使用すると同時に手も交互に抜き掻く。

扇平泳の姿勢で、右下の扇足をなすと同時に左手は胸の前方の下より左腰の方向へ掻き、水上に抜き



上げる。右手は此の間に掌を下にして前方に伸し水に入れる。抜き上げた手は腰を振り更左下扇足を行ふ時に水面上餘り高く上げずに目前に持來り平に水に入れる。右手は胸の前下方より右腰の方向へ水を掻き抜く動作に移る。

### 八、立泳

踏足を行ひ手を使用することなく頭を水上に現す。静止し並に任意方向に進み得ること。

#### 一 姿勢

踏足の姿勢をとり手は横に伸す



#### 二 足の使ひ方

右の姿勢で一方の脚(右脚)で水を外下方に踏む此の場合足首は軟かにして踵にて踏む心持で行ふ。

先づ脚を稍縮め踵を内側より後方へ踏み下しつゝ外側方へ踏み終る、踏終りたる時には足首の力を抜き、稍前方を経て脚を縮めつゝ元の位置に戻す。

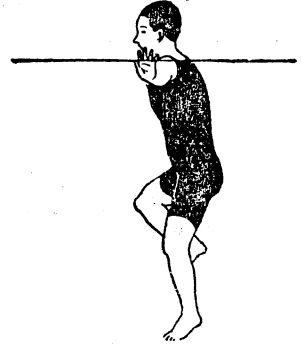
他方の脚(左脚)は一方の足(右脚)が踏下けた時に太腿を上げ、一方の足(右脚)を元に戻す時他方の脚(左脚)は水を外下方に踏下す。

此の動作を交互に滑かに連続して行ふ。

### 三 運動

前、後、左、右何れかに進まんとする時は其の進行方向に身體を適度に傾け踏足を斜に使用して進行す。

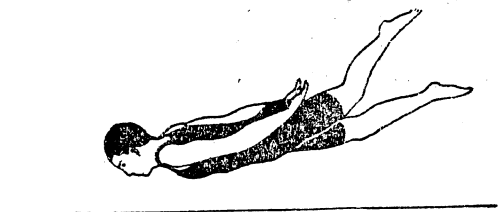
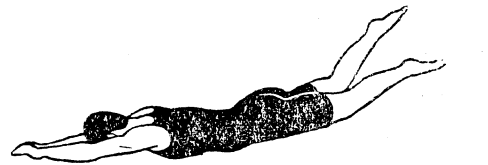
進行すると否とに拘らず體は動揺せざるを良とす。



### 九、潜り

#### 一 準備

潜水に於ては呼吸準備が必要である、潜水に先ち數回深呼吸をなし、八、九分の吸氣をなして水中に入る。



#### 二 縦潜り 水底に向つて潜水す。

直立のまゝ一度體を水上に出し沈入後兩手にて同時に水を押し上げ潜入す。此の外頭部を下にして平潜の要領にて潜入するものあり

#### 三 平潜り 水中に潜入し平泳又は扇平泳の姿勢に

て潜行す。

### 一 水中姿勢

體は眞直にして稍斜めに頭部を淺き位置に置く。

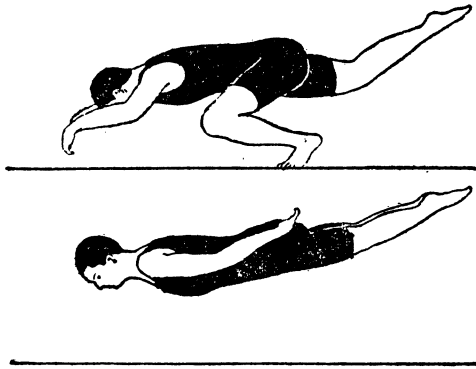
### 二 水中の動作

水中にて進ずる際は前項の姿勢にて蛙足、扇足或はバタ足を使用し、兩手は頭の前より同時に外側後方まで半圓を畫きつゝ體の浮かざる様に水を掻き上げて進行す。

### 四 伸潜 ノシモグリ 水中に潜入し伸泳の姿勢にて潜行す。

水中にて伸泳の姿勢となり動作の要領は伸泳の所で述べた同様であるか異なる點は手の掻き終りたる際に上方の手は上方の脚の外側まで掻き上げ下方の脚の内側まで掻き上げる事ある。

### 五 蹴潜 ケモグリ 水中に潜入した水底を蹴つて前進す、水底に潜入した足先を水底に付け兩膝の屈け體の



上部を俯し兩手を胸の下方に竝べた姿勢をとる。足先にて強く水底を蹴ると同時に兩手を前方に伸し直ちに手の平を外方に向け、外後方に半圓を畫きつゝ水を掻き上げる。次に進行の未だ止まらぬ前に掻き終つた兩手を靜かに屈けつゝ胸の下に運び、伸した膝を屈けて足先を水底に付け次の動作に移る準備姿勢を取る。

右の場合に兩足を同時に蹴る代りに片足づゝ交互に蹴り、或は片足のみにて蹴つて潜行することも出来る。

### 一〇、浮 シキ 身 ミ

手足を使用することなく水面に仰臥或は俯臥す。一定の時間水中に浮ぶ事。

水面に仰臥し又は俯臥し、頭を充分に水に浸し脚



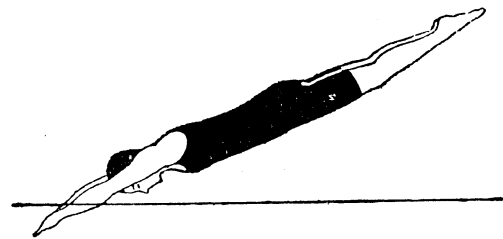
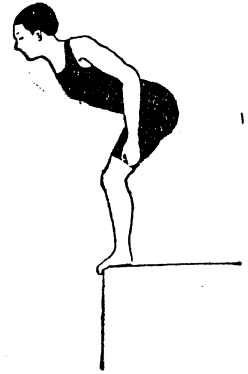
は膝を開いて軽く縮め、腕は頭の方方に軽く伸し兩手の接する位にして體力を抜く。

呼吸は常に横隔膜を押下け適當量の空氣を肺臟に貯へ、息を小さくして脚の沈下を防ぐ。

### 一一、逆 サカ 飛 トビ

體を伸し兩足を揃へて速く飛び、頭の方方に兩足を揃へ手先より水に入る。

兩足の拇指に掛け左右兩足の拇指間を一、寸開き



眞直に立つ、次に膝腰を軽く屈け手を膝におき體の重みを足先にかける、此の時目は約十米の前方を見る飛込を始める時には手を腰より外し膝腰を少し屈め體を前に倒すと同時に足首、膝及腰の關節を充分に使つて、淺く遠くへ飛ぶ、足が臺を離れるや否や直ちに兩足を揃へ體を伸し頭の方方で兩足を揃へ手より水に入る。

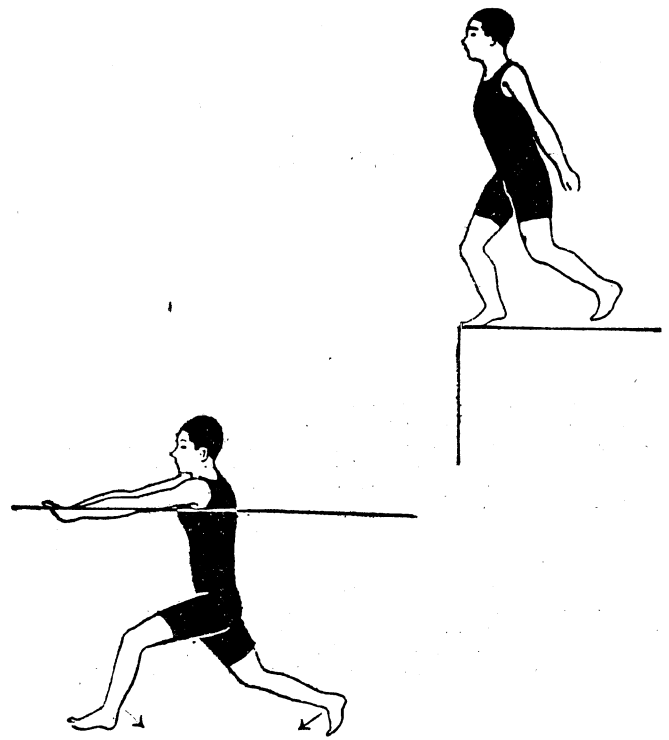
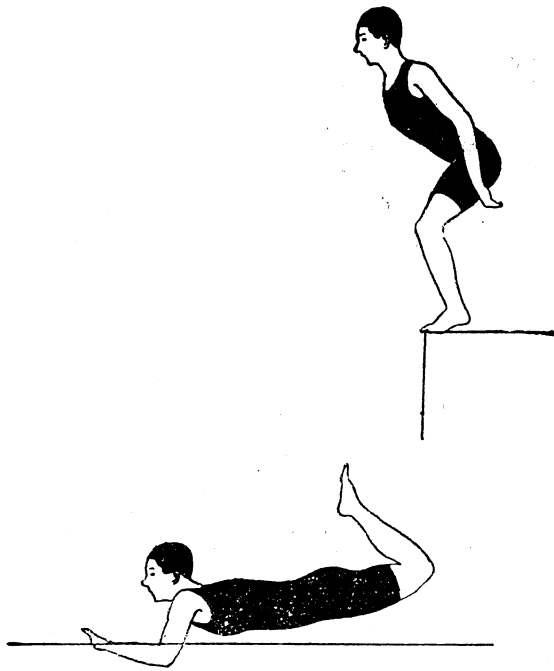
### 一二、平 ヒラ 飛 トビ

體は半にして飛び兩膝を屈け兩手を前に揃へて顔に當る水を押へながら淺く飛び入る

臺の上にて眞直に立つ飛込を初める時には體を前に倒し軽く飛ぶ、足が臺を離れると同時に兩膝を屈け胸を張り手を頭の方方に揃へて顔に當る水を押へながら淺く水に飛込む。體は殆ど平に水に入る。

### 一三、立 タテ 飛 トビ

直立、扇足又は蛙足の姿勢で水に入り手は胸先或は兩側にて水を押へる。水に入りたる時



### は脚を使用して深く入るを防ぐ

飛出す時は體を稍前方に傾け兩足又は片足にて踏切り同時に手を兩側又は胸前に上げ肩の高さに保つ

足は延したまま或は扇足又は蛙足の姿勢をとる水に入ると同時に手で水を押へ足で水を挟んで頭の水中に没るを防ぐ。

(12頁より)

早の横山に對し慶の河石が何處まで戦ふかと思はれたが、横山豫選後の疲労の爲か獨特の物凄いラストスタート出でずタッチの差で河石に押し切られて終る。却て志村がラストで良くビッチ上り河石に迫て恐るべき底力の片鱗を見せた、今一層泳法が洗練せられて来るならば確實味を益して良き中距離選手たり得るに相違ない、慶の中堅たるべき小川小森の不振は身體の調子もあつたらうが今後の精進を切望する。

「千五百米自由型」

- 一着 米山(早) 二〇分四五秒二
- 二同 田中(早)
- 三同 根來(慶)

田中(早)の得意とする種目であるが米山主將の元氣當る可からずギリギリと離して優勝する。同君最後の早慶戦の好き思出とならう 期待せられた根來も豫選會の肉體的精神的を過疲のため苦闘を續け調子頗る悪く追撃の餘地なく破れた昨秋に比して泳ぎに些か無理が生じて居る。四着争ひは慶の山本と早の中村で同型の泳法で千二百米迄終始並行したが以後山本徐々に離し十米近く勝つ。

「八百米リレー」

一着 早大(志村阪上米山横山)九分三六秒四慶はスタートに河石を出し約二米リードしたが阪上頗る好調で山川を追ひ忽ち十米近く引き離し兩者の差は次第に増し結局大會記録を一秒四破つて早大勝つ。

斯くて競泳は九十對四十四點の大差を以て早大六度優勝水球は三戦二勝で慶のリードとなる。

毎年本大會はシーズンの皮切りで諸選手の今年度の調子如何を窺ひ得ると云ふ意味で水泳界から相當注目せられて來たが競技會そのものとしては未だ完全なるものとは云ひ難い、勿論兩校の選手が和氣霽々裡に心持良く戦ふと云ふ一面も對抗競技に不可缺の要件であつてこの點に於ては第一回以來實に氣持良く行つて居り、永久に續けて行かねばならないが他面實力の接近と云ふ事も代表的對抗競技の一として最も肝要な事と思ふ。卒直に云ふならば本競技會を一層有意義たらしむるには慶應の競泳が強くなることである。斯くてこの代表的對抗競技として日本水泳會に貢献する事が出来るであろう、私は本競技會開始頭初の目的は茲にあり、現在も亦この目的に向て精進しつつあることを信ずる慶應選手の責任は重い、一致協力唯一路實力の向上に邁進せられたい。

早 慶 對 抗 水 上 競 技 會

六月十九日 於神宮プール

林 忠 雄

名主將藤田を失つたとは云へ後繼に堅實無比の米山を推し第一戦に入江横山高橋宮本松平竹林坂上を有し、更に元氣一杯の志村新鋭田中前田を加へた早大チームは陣容に些の揺ぎを見せざるに對し慶應は柱石野田主將以下市橋大串猿橋の中心選手の卒業と之を補充すべき新進の缺乏によつて精神的の打撃も頗る大きく勝敗の開きは大となることは予め推察し得た。

「四百米」

- 一、米山(早) 五分六秒四
- 二、田中(早) 五分一秒八
- 三、志村(早)

早大はNo.1横山を出さず米山主將の下に新進氣鋭の志村田中の出場を見たが、慶は小林練習中過勞から身體を壊し元氣未だ回復せず早の全勝に歸した、米山の巧妙な泳法と確實なタイムの背後に潜む猛練習と眞しな研究心に深く敬意を表し、傳統的に此の種目に特に弱い慶應選手の發奮を望む、田中は昨年來泳法の缺陷により稍やスランプにあるが、氣持を腐らさずあせらずに研究したならば生來の良い素質と體力を以て近く一大飛躍をなし得るであろう。

「二百米平泳」

- 一、前田(早) 三分一秒六
- 二、藤本(早) 三分九秒
- 三、調子(早)

再び早の全勝に終る而も第一線の早と第二線の慶の差は約二五米も水が空いた。

新進前田(早)が二先輩を押へて一着となつたが將來が期待せられる。

「百米」

- 一、河口(慶) 六〇秒二
- 二、高橋(早) 六〇秒四
- 三、宮本(早) 六二秒八

隨一の見應へあるレースであるが河石主將の奮闘で慶の障營に初めて歡聲上る。

河石の滑り出し良く三五米邊で上半身先んじ高橋宮本、若山殆ど同列でターン、六〇米邊で若山落ち

八〇邊で宮本遅る 高橋最後の十米ピッチよく上り追撃物凄かつたがタッチの差で河石逃げ込む。昨年と丁度反對のレースだつた。河石は昨年までは七五米邊から急にピッチを上げラストが目立て強かつたが、之は百米の泳法として幾分變則な感が深く今年のやうにスムーズに最後まで滑つて行き得るやうになつたのは一進歩であろう。二百四百を練習した賜か、高橋のゴール前三米からの巧妙なタッチの呼吸は實に感嘆の外はない百米泳者にとつては非常な強味である。解つてゐるて實行の困難な點であるが今後の短距離選手は特に十分研究する要がある。宮本の調子回復を期待し中距離の練習に更に力を注がれん事を望む。

「百米背泳」

- 一、入江(早) 一分一二秒二
- 二、勝久(早) 一秒一四秒四
- 三、根來(慶)

オリンピック豫選以來すつかり元氣を復活した入江は堂々大會新記録を出し確實味を見せた、二着の勝久(早)も亦從來の大會記録に劣ること僅に五分の一秒で今秋の活躍が期待せられる。昨秋來至々バツクの練習から遠ざかつて居た根來(慶)はラストの十米邊で上野を離しレース上手を示した。井上(慶)は身體の素質も良し器用な泳法を以て前半は相當に附いて行つたが八十米邊からガタ落ちだつた。今後の猛練習を望む。

水球

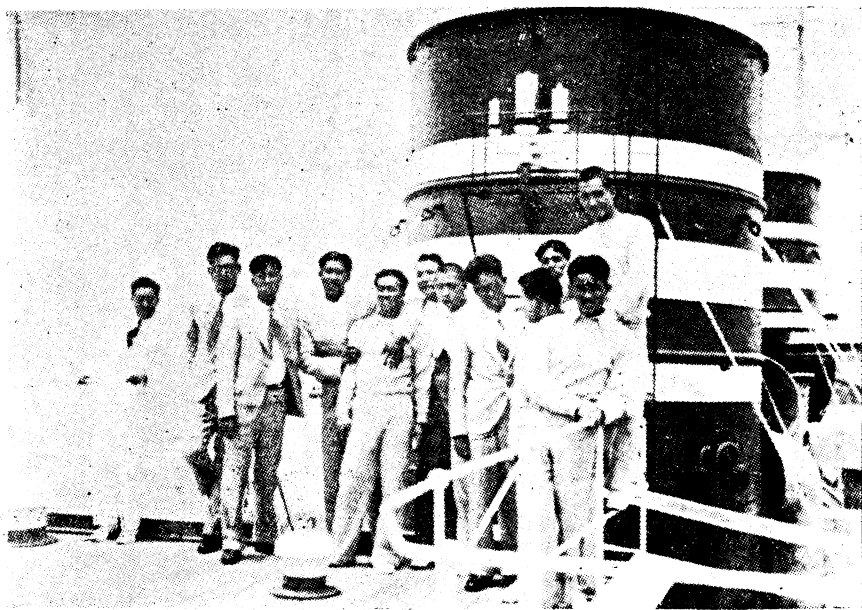
慶應二——早大一

兩軍共オリンピック代表選手のみならず候補者も出場せず全然第二陣の爭覇となる。技倆伯仲で兩軍頗る緊張して大接戦であつたが代表選手のゲームを見た目には個々の技倆が見劣りするの止むを得まい。慶の平岡磯部が目立つたのみであつた。

「二百米自由型」

- 一着 河石(慶) 二分二一秒
- 二同 横山(早) 二分二一秒
- 三同 志村(早)

(11頁へつゞく)



オリンピック

選手

消 息

片 々

### 六月二十三日

われ等のオリンピック選手は二十三日朝、ロサンゼルスへの進軍の第一歩を踏み出した。男子競泳選手は午前九時半、明治神宮に姿を現した。紅白ダンダ細筋でふちをつた恩賜のブレザー・コート、白パンツ白靴、麥わら帽といふスマートな出立ち、清拔を受けて内殿に入り、玉串を捧げた。之れから水泳王國を築き上げた懐しの外苑プールに到り末弘會長を中心に記念撮影をなした。

午前十一時選手は相前後して丸ビル前に、こゝには無数のファンが國民的感激をその面にたゞよわして待つてゐる。やがて選手一同は日の丸の小旗を手手に手に打ち振り、宮城前に行進、兩陛下萬歳!! 必勝を誓ひ、君が代の齊唱に日本魂を強化した。

東京驛前からプラットフォームは嵐のやうな感激の渦「ばんざい!」ばんざい!「しつかりやつてくれ」の歡呼に臨港列車は零時三十分いよいよフォームを離れた

横濱岸壁も東京驛に劣らぬ見送り、陸と船との狂操曲は郵船龍田丸の朗かなバンドと合して青空高く鳴りひびく。かくて午後三時無数の五色のテープに名残りを惜みつゝ龍田丸は水陸の勇者を載せて一路南加ロサンゼルスへ!!

○

### 六月二十四日

禁煙して早くも練習開始 横濱出發の感激のためやらぬ午後五時横澤コーチは「さあこれから船中に於けるトレーニングを始める」と命令。トレーニングシャツに着替へてボート・デッキに出て、コーチから

の注意を聞き、柳田氏指導で早速デンマーク體操を行つた。

また水泳選手はオリンピックに優勝する迄は禁煙を申合せた、煙草を吸つてゐた鶴田、高石は少々困つてゐるが、それでも「僕達は勝たなければならぬから」と決心の程を示した。

○

### 六月二十五日

海上平穩にして一同元氣、デッキに出た小池選手「オーイ! 大きな鯨が見えるぞ!」と大聲に叫ぶ。一同どれどれとデッキに出た鯨の影も形も見えぬ高石主將等「なんだ!!」

午後三時からプールで約一時間練習。

○

### 六月三十日

#### オリンピック第二陣出發

男女飛込、水球、女子競泳の選手は三十日その他の選手役員等と共に二十三日の先陣にも劣らぬ歡送を受けて午後三時横濱解纜の太洋丸で出發した。

#### 先發軍ハワイ上陸

オリンピック船龍田丸を迎へたハワイの感激は大したもので、わけても日系市民は舉つて歡迎準備に力こぶを入れてゐる。午後一時ホノル、に入港、直ちに上陸ハワイ名物の花環を首にかけ、休憩の暇もなくワイキキ戰勝プールに到り思ふ存分の練習をした。

○

### 七月一日

#### ホノル、出發

常緑の町ホノル、でなつかしい土の香に親んだ日本水陸の選手は三十日は練習と見物につかれて、ぐつぐつと寝込み、一日は午前六時起床、在留邦人有志から差廻しの自動車でプナホウ・ハイ・スクールの淡水プールで練習し、正午出帆。

### お馴染のハワイの人達、わが選手の實力にたい驚嘆

ハワイには一九二五年六名の選手が遠征して来て八百米リレーに世界記録を破り世界を驚かした記念すべき地である。その後数回遠征やハワイチームの來朝等でホノル、は内地に歸つたやうな、なつかしい気がする。名監督タッド、センター氏も日本の練習を見て、「オー・ワンダーフル」を連發するのみ。「大會には日本は千五百と四石には必ず勝つ、平泳も小池の泳がよいし、スペインも餘り強くないから勝つと信ずる」と我等の選手の實力を裏書した。

○

七月六日

### オリンピック第一船、サンフランシスコ着

オリンピック選手一行をのせた龍田丸は二週間の航海つゝがなく、一同所定のスケジュールで体操とプールの練習を積み六日午前十一時波靜かな金門灣頭にその雄姿を表した。サンフランシスコからは若杉總領事をはじめ歓迎委員十四名がわざわざランチで出迎へた。日米官民堵をなしての大歓迎、上陸した選手一行は直ちに日米兩國旗を翻したる自動車に分乗して音楽隊の奏樂裡に歓迎會場たる市廳へ向つた。在留邦人の喜び方は非常なもので、久し振りに日本青年の意氣颯々たる大行進を眺め涙を浮べつゝ萬歳を絶叫した。市廳ではサンフランシスコに主催の公式レセプションが行はれ、市長ロツシー氏は熱誠こめた歓迎の辭を述べ、我が選手に最大の敬意を表するためサンフランシスコ市の健を授與された。式後市内見物をして船に歸つた。

○

七月九日

### 我が選手ロサンゼルスに安着

龍田丸は九日午前七時四十分ロサンゼルスサンピトロ港外に現はれ、こゝでも日米官民の多數の歓迎を受け、いよいよ世界制覇の目的地に上陸第一歩を印した。午前九時上陸ボーター市長の歓迎の辭をうけ、スタヂアム、プールを見てオリンピック村の宿舎に入つた。心配した海も至極平穩で終り、我々の希望の半は既に達せられたやうな気がする。

晝食後プールに到り、初練習を行つた。

### わが選手意氣軒昇、すでに敵を呑む

いよいよ晴れのオリンピック・プールに飛沫をあけて初練習をした高石主將は次のやうに語つた。

「今年こそ優勝を望めると思ひます。私は今度で三度目のオリンピックで、その當時からの古顔はチャールトン丈けとはうたゞ感慨に堪へません。チャールトンは千五百米を十九分五十秒で泳ぐといひますが、こちらにも牧野あり、北村あり決して負けませぬ。前回四百米優勝者アルゼンチンのゾリラが來てゐますが、これとて大横田、横山等の相手にはならないでしょう。殊に我選手は意氣がしつかりと合つてゐるので何よりの強味です。」

### 各國選手の評

ゾリラ——日本選手は泳いでゐると見ると、ちつとも早いとは思はないが、タイムを計ると存外早い。

チャールトン——日本人の手の使ひ方が判らぬ、どうも不思議だ。

ゾリラ——他の國の選手は手ばかりで水を揺くが日本の選手はよく足を使ふ。

### 第二陣ホノル、着

オリンピック第二陣を乗せた太洋丸は九日ホノル、寄港、ハワイ體育協會の歓迎をうけ、自動車をつらねて知事を訪問、午後各練習をなし、午後六時出帆した。

○

七月十日

### オリンピック村に一夜を明した我選手、十日はゆつくり見物。規律があつて好評

一夜オリンピック村の宿舎にあかした我選手は先着の各國選手役員達とハロー・ハローと朝の挨拶を交す。高石主將は宿舎について、「大變住みよい所です。昨夜は寒すぎる位涼しかつたので驚きました。この調子なら、大會迄いくら暑い日が照つても夜丈けは安心ですから、選手一同喜んでゐます。食事は日本人のコックがうまい物を作つてくれます。」と語つた

わが選手は先客よりおとなしくて規律あり、子供供してゐて評判がよい。

午後は市内見物に出かけた。

○

七月十四日

### 全米水上豫選始まる

全米國の男子水上選手豫選會はシンナチ市で十四・五・六日の三日間又女子は十五日からジョンス・ビーチで行はれたが、各競技三等迄米國代表となる。注目すべきは百米背泳の覇者コジャックが都合によ

り不出場せず随つてオリンピックに彼の雄姿を見ないことは米國チームにとつては最大の痛手である。尙田畑代表は飛行機でシンシナチの豫選を見に行つた。

#### 男子 100自由型

1. 60.2 シュワルツ(イリノイA.C.)
2. ロイ・ムソン(海軍大學)

#### 400自

1. 4:56.4 クラブ(ロサンゼルスA.C.)
2. ギルフラ
3. バーセルス

#### 1500自

1. 20:19.2 クラブ(ロサンゼルスA.C.)  
フレナガン(マイアミ)
3. クリスチー(ミシガン)

#### 200自

1. 2:18.2 ファイスラー
2. 2:18.4 マイオラ・カリリ
3. 2:20.4 ウィネット(加州)  
ブラス(ロサンゼルス)
4. 2:20.6 ギルフラ(デトロイト)
5. 2:20.8 メヂカ(シヤトル)

#### 100背

1. 1:10.4 ゼール
2. カーバー
3. チャルコース

#### 200平

1. 2:55.4 モールス(ニューヨーク)
2. ブランケンバーグ(ロサンゼルス)
3. フランシス(ボストン)

#### 女子 100自

1. 1:09.2 マヂソン
2. マツキム
3. サヴィル

#### 400自

1. 5:32.4 マヂリン
2. カイト
3. フォーブス

#### 100背

1. 1:18.2 ホルム(世界新記録)
2. マクシイ
3. ロバート

#### 200平

1. 3:12.6 ホフマン(米國新記録)
2. ガブトニク
3. キアドウエル

#### 飛抜飛込

1. 78.68 ロールス
2. 77.75 コールマン
2. 76.30 ノオーンス

#### 高飛込

1. 36. ボイントン
2. 33.70 コールマン
3. ローバー
4. ミーニー

#### 七月十四日

##### 外國選手が日本式の練習

世界制覇を目指す水上選手は上陸後第六日、すつかり調子を恢復して猛練習、初めは日光が強くて目を射るので困つたが今はそれにも馴れてコンディションは上々、小池などは、「優勝すれば賞品は何だ」ともう勝つた氣でゐる程すばらしい自信である。

松澤コーチがいくら「軽く軽く」と云つても、直ちに猛烈なせり合ひになる有様で、強敵は米國よりもむしろ日本選手間にあると云ふ状態である。

百では宮崎、平泳では小池、四百では大横田、横山、千五百では此村牧野が目立つて元氣である。

同じプールで練習してゐる外國選手達は何れも日本の規則正しい練習振りと度膽を抜かれて次第に日本式の練習を見習つてゐるのも面白い。

#### 七月十五日

##### 第二陣サンフランシスコ着

大洋丸は女子競泳、水泳、飛込の選手及その他の競技の選手、役員をのせ十五日サンフランシスコに到着した、上陸後一行はロツシー市長を訪問、市長は歓迎の辭に次いで男女選手代表に金の鍵を贈與した。夜はフックス劇場で觀劇した。

#### 高石主將咏嘆

日本水上選手の氣焔大いに上り、チャールトン等は日本選手が來ると水からこそそと上り日本の河童の泳をあきれるやうに眺めてゐる。一昔はアルネボルグ等が泳ぐと日本選手は小さくなつてゐるが、「時代だね」と高石主將述懐。宮崎は五十米を軽く泳いで二十六秒八、他の選手も皆二十八秒フラツト、高石は三十秒、彼又曰く「時代だね」。

#### 七月十七日

##### 五十八秒八、宮崎の大記録

十七日始めて正式のレコード會を催した。一同元



氣で殊に宮崎は百米五十八秒八と云ふ、ワイスミューラー、バラニーの外には出したことのない大記録を示し、全米豫選の不振にひきかへ、わが選手の全勝が希待されるに到つた。

100自	58.8	宮崎
	59.7	河石
	59.-	高橋
	59.-	豊田
200自	2:20.4	武村清
	2:20.4	高石
400自	4:52.5	大横田
	4:53.2	横山
1500自	20:10.4	北村
	20:16.8	牧野
200平	2:47.6	小池
	2:51.0	鶴田
100背	1:10.2	清川
	1:10.6	河津

レコード會終了後松澤コーチは謙遜な態度で語る。

「ロサンゼルス到着後の練習スケジュールでは丁度今日あたりが一番へばるところで、それにプールの水温二十五度半で餘り芳しくないコンディションなので、單に参考として記録をとつたばかりですから、大會に於ける成績を豫想するのは間違ひです。宮崎、小池はあんなに疲れてもこの記録を出してゐます。大會でも宮崎は五十八秒臺は樂に出ると信じます。」

### 七月十八日

#### 太洋丸いよいよ羅府安着

#### 全米に「日本恐るべし」の聲響く

全米豫選の不振、コージヤックの家事の都合による不参加は米國水泳チームには大痛棒で、今や「日本恐るべし」の聲が全米に聞かれる。

米國男子オリンピック水泳コーチ、ホップ氏は語る。

「水泳に於ける過去八年間の日本の躍進は實に驚異的で、陸上競技に於けるドイツの進歩を除けば、大戰後の世界スポーツ界に比がない。四百米では大横田、横山がタリスと接戦するだらう。千五百では日本の最終豫選會に北村、牧野、石原田が二十分を切つたから斷然優勢だ。」

タリスは千五百もよく、米國のクラブも恐る可き實力を發揮するだらう。しかし平泳では米國は昔からよい選手がゐない。」

### 七月十九日

#### 女子選手の練習

我が女子選手は十九日朝八時半監督杉本氏に引率されプールに表れ練習を開始したが、丁度プールにゐた米國のクラブ、及びブラツケンバーグ等は、自分等の練習を止めて珍らしげに日本選手を見たのでやゝ固く取り氣味であつた。

### 七月二十日

#### タッチの猛練習

松澤コーチはタッチに注意し、その練習に細心の用意を忘れない。二十日練習記録、

200自	2:16.4	横山
100背	1:10.4	清川
同	1:10.8	河津

### 七月二十一日

#### 祖國へ送る我が選手の狀況

松澤コーチ、——私達の苦心してゐるのは、どうかして選手のコンディションを大會當時に最上の状態にしたいといふのです。だから今一寸見ると氣の毒な位無理な練習をさせてゐる。然しこの疲れがとれて一休した後は絶好のコンディションになると信じます。我チームは今度は全種目に十分チャンスがあります。然し云ひ換へるとチャンスがあるといふことは、外國にもチャンスがあるといふことだから、油断は出來ない。何しろ今度こそはといふので意氣込んでゐますし、祖國の期待もこれにあると思へば、責任の重大なるを痛感してゐます。」

齋藤魏洋氏——今回はワイスミューラー、ボルグ等の引退、コージヤックの不出場で特に目立つた選手を云へば、佛のタリス、アルゼンチンのゾリラ、濠洲のチャールトン、ハンガリーのバラニーなどしかるない。我がチームの正選手は二十三日でないかわからないが、これ迄の各國豫選の結果と練習状態から見た豫想を述べて見ると、大體日本が各種目に優勝出来る見込確實と云へやう。

### 七月二十三日

#### 前畑の記録

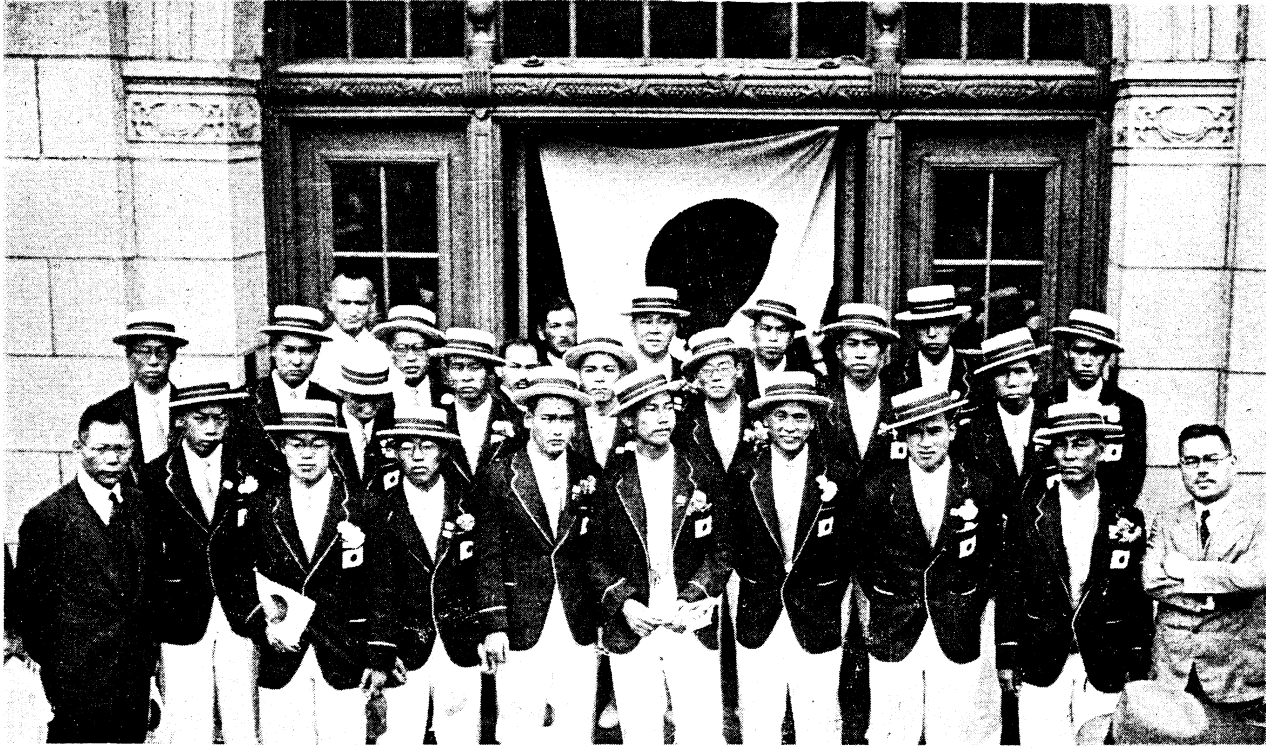
二百米平泳に三分十一秒フツラトの日本記録を作つた。

### 七月二十四日

#### わがメンバー決定

# Photo Suiei

征 途 に 上 る !



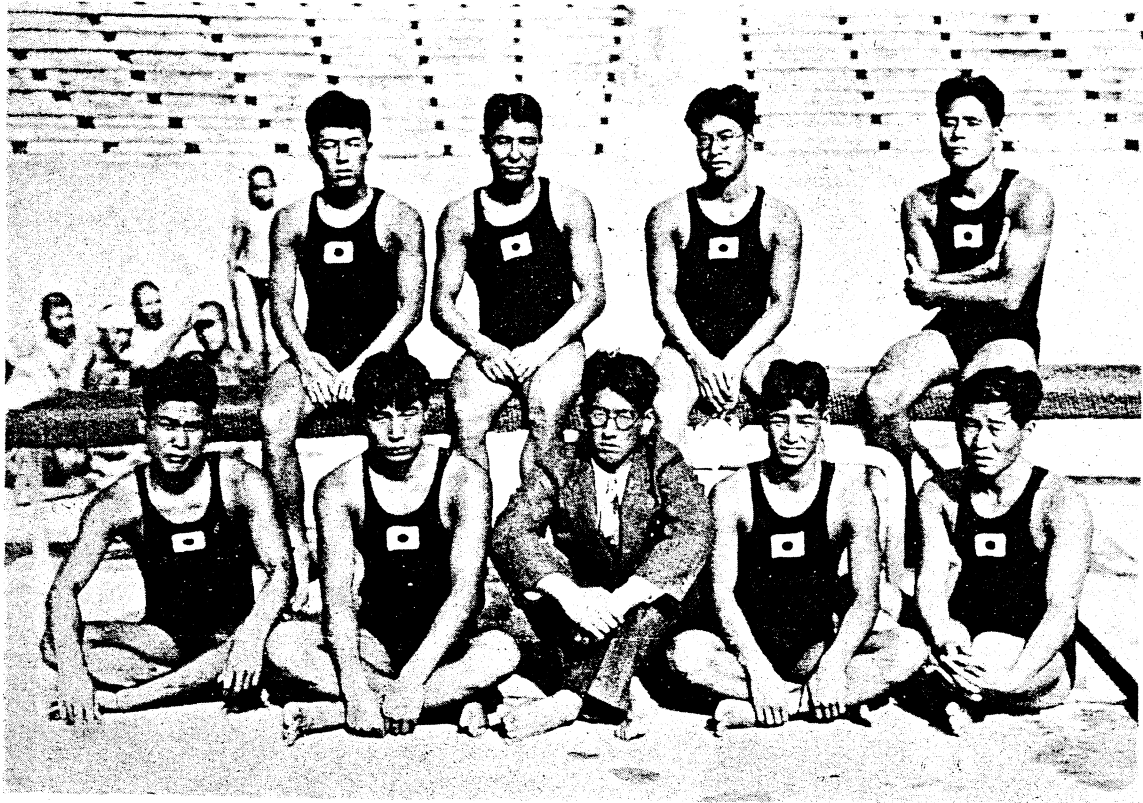
正服をつけた男子競泳選手

準備に忙しい女子選手



水球代表チーム

この九名の外背泳の鈴木政雄君が加はることになった

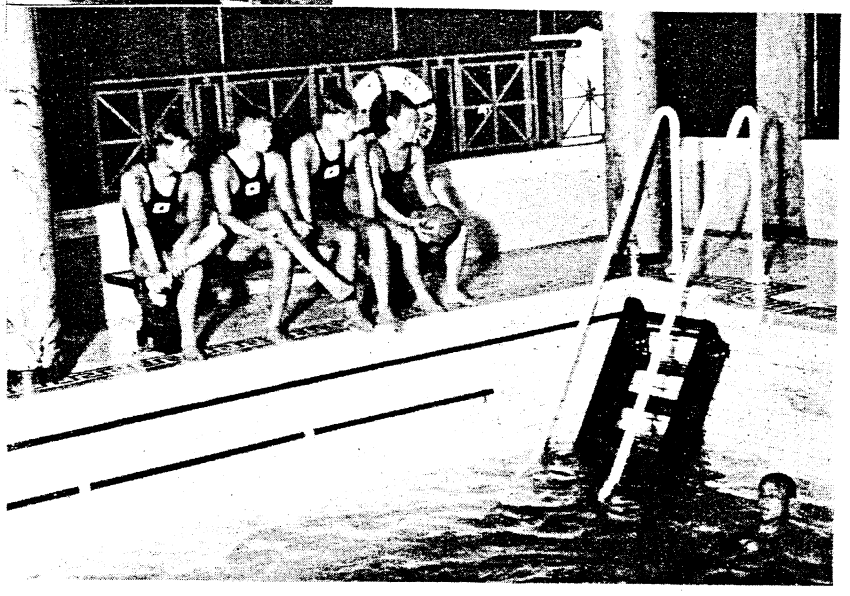


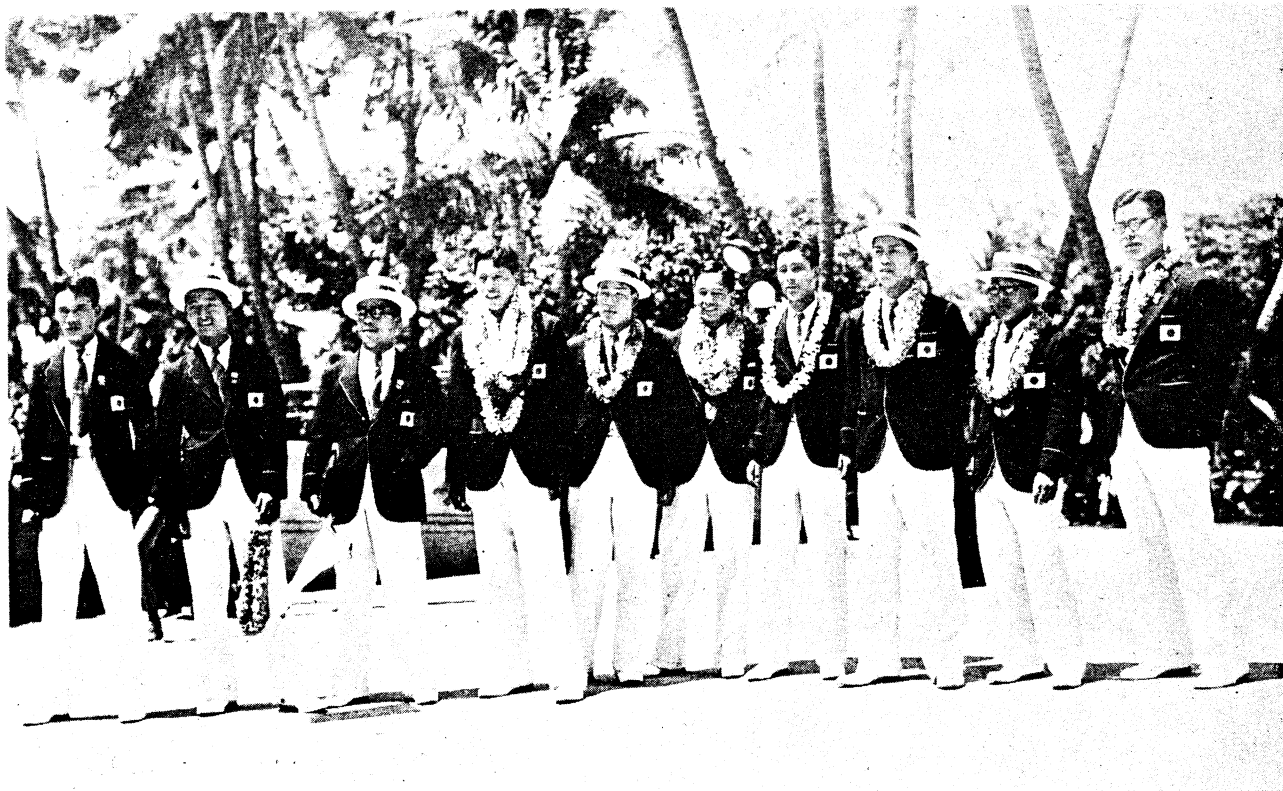
龍田丸のデッキ

← デンマーク 体操



→ 船内プールの練習



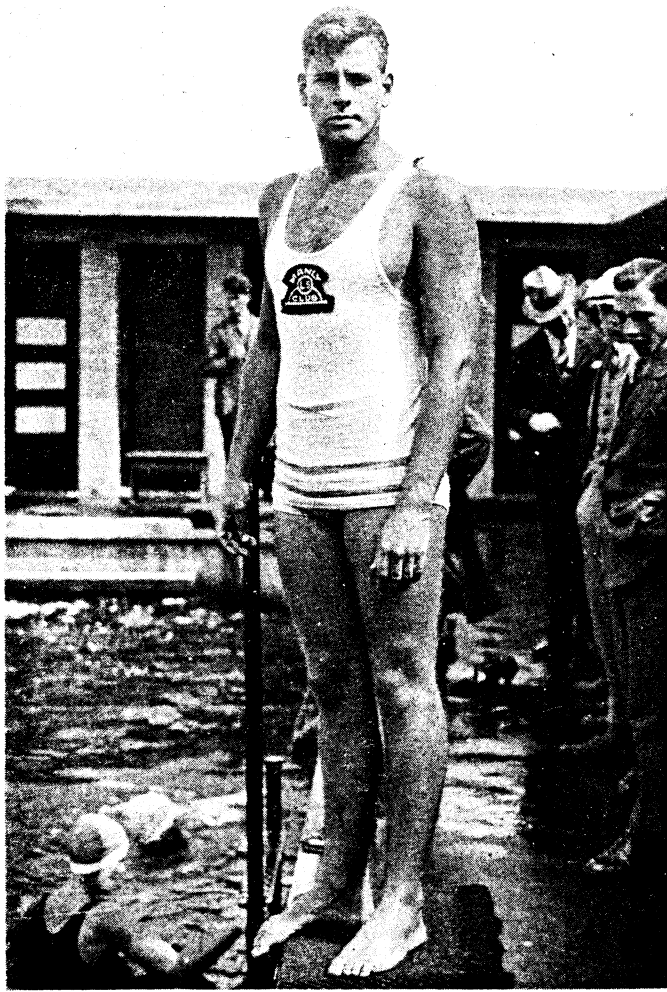


上圖 ハワイに上陸して名物の花環を首にかけた我選手

下圖 ワイキキの戦捷記念プールで飛沫をあげての練習

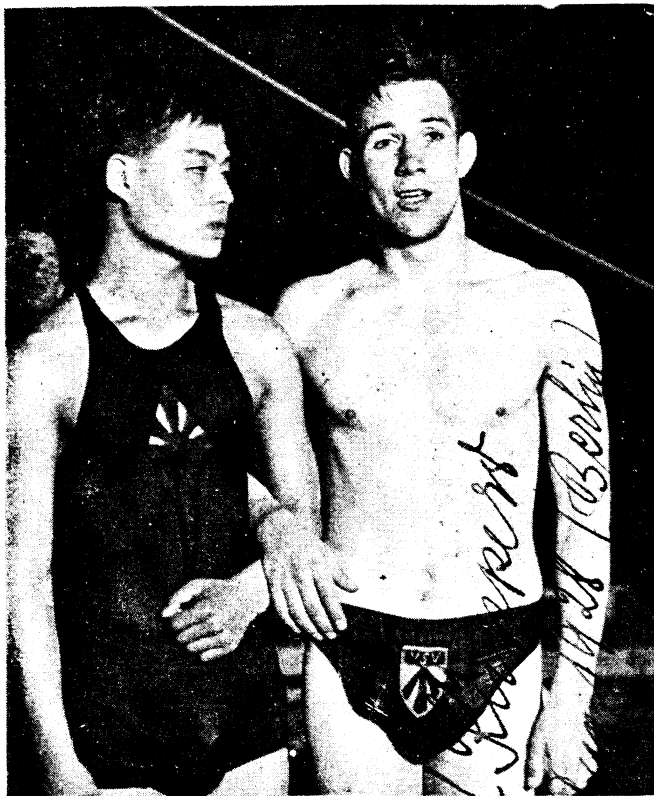


海外だより！

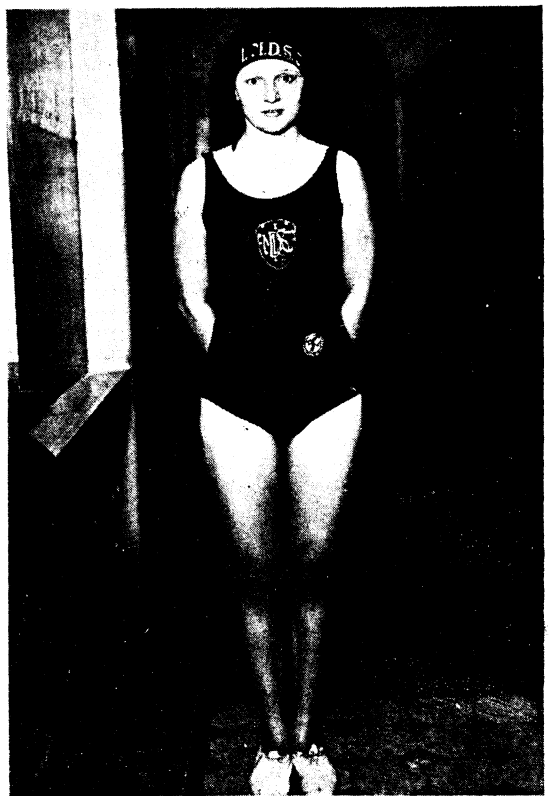


↑ ノエル・ライアン (濠)

← テーブルトン (濠)



← 背泳のエルンスト・キツパス (獨) と入江



← 女子平泳のリザ・ロツケ (獨)

オリンピック男子競泳チームのメンバーは二十四日の豫選の結果、午後八時左の通り発表された。

100自 宮崎、高橋、河石  
400自 大横田、横山、杉本  
1500自 北村、牧野、石原田  
100背 清川、入江、河津  
200平 小池、鶴田、中川  
800リレー 大横田、横山、宮崎、高石、武村(清)片山

七月二十六日

日本には勝てない——米國水上コーチ、キツファスの悲観

キツファス氏は二十四日午後の米國チーム内の豫選を憂うつな顔で眺めてゐたが、二十五日嘆聲をもらして次の如く語つた。

「米國チームの現状では、あの強い日本にはどうしても勝てないことを自覺した。米國の寶ワイスミューラーもコジャックも居ない。米國の弱さは想像以上で私は勝敗を豫想する元氣もない。米國の僅かの望みは、リレー、脊泳、四百だが、中でも背泳の少年ゼールが、調子よくうまく行けば一分十秒を切れるので、それを楽しみにしてゐる。日本チームの強さは將に壓倒的で、その前には米國も、佛國も、ハンガリーも問題ではないだらう。」

七月二十七日

わがエントリー発表

男子競泳

百 米 宮崎、河石、高橋  
四 百 米 大横田、横山、杉本  
千五百米 北村、牧野、石原田  
百 米 背 清川、入江、河津  
二百米平 小池、鶴田、中川  
八百米リレー 高石、武村(清)武村(寅)豊田、片山、遊佐

背泳の鈴木は水球に参加することになつた。

女子競泳

百 米 荒田、松澤、小島  
四 百 米 守岡  
百 米 背 横田  
二百米平 前畑  
四百米リレー 横田、松澤、小島、荒田、前畑  
守岡

飛 込

飛板飛込(男子) 小林、生江、(女子)鎌倉

高飛込 男子 石田 (女子)鎌倉

水 球

尙リレーに關して、スピード選手は誰でもリレーに出られるといふ日本側の解釋を基礎として提出したもので之が承認され日本の申込が有効となれば、リレーには宮崎、大横田、横山、牧野、河石、高橋、豊田、遊佐の八名を候補として置きその日のコンディションに依りチームを編成する。この問題は國際水上競技聯盟ドナート主事だけでは決定出来ないから結局國際水上聯盟のマネージング・コミッティーを開き、日本側から田畑氏出席して審議の上決定することゝ見られてゐる。

七月二十八日

牛鍋つゝいて座談會

世界水泳のナンバーワンの中特に我が國とは親み深いマイオラ・カリリ、シュワルツ、カナダのハララン、それに日本から高石、横山、鶴田が出て大いに馬食ならぬ牛食をしたが、この外國選手の健啖には日本の猛者も兎を脱いだ

シュワルツ——日本選手の素晴らしいのは今更ながら驚いた。日本は殆んど全勝に近いだらう。米國の最も有望なチャンスは四百米のクラブだが、それ以外にはチャンスが少い。それ程に米國の自信が薄いだことは、如何に米國が日本を恐れてゐるかの證據である。」

ハララン——シュワルツ君は米國の唯一のチャンスは四百米のクラブだと云つたが、八百米リレーは米國が勝つと思ふ。

シュワルツ——いや駄目だ、日本にとられさうだ。

カリリ(高石に)——僕は日本のベスト・フレンドだが競技には全力をあげて日本撃破に努力する。

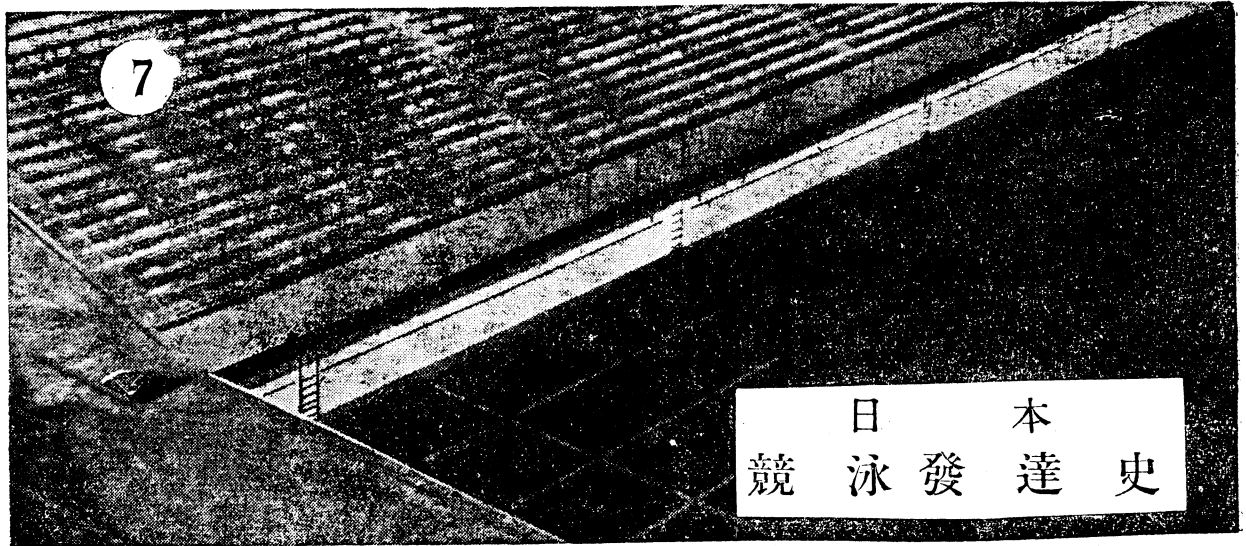
わが堅壘を脅かす敵將

ハンガリーのバラニーは五十九秒で百米を泳ぎ、又フィリッピンのイルデフォンズは二百米平泳に二分四十六秒を出し、我が宮崎、小池鶴田も樂觀を評さない。

七月三十一日

秩父宮殿下の御激勵

スポーツの宮さま秩父宮殿下は、南加の地に満を持して戦を待つ我が選手に御激勵の御言葉を賜つた運動競技の眞髓を發揮し國際競善の増進に努力せよ



日本  
競泳發達史

市村 魁山

第一章 競泳勃興時代 (自明治年代  
至大正十一年代)

第三 覺醒期の競泳界

(2) 全國學生及濱名大會創始(大正10年度)

扇足泳法は安府遠征を名残りとして漸次競泳界から姿を消すものの如く、五月の極東選手豫選會には殆んどクロールに變る狀況であつた。此の新興の意氣を以て上海に戦つたわが軍は、期待に反し僅か一點の差とは云へ、此軍に敗れたのである。主として短距離の不振に因ると雖も概ねクロールに熟達せぬ結果と云はれる、茲に濱名灣游泳協會は永らく雌伏時代にあつたが、茨木中學の躍進に奮起し本年度始めて全國競泳大會を辨天島に創始し、茨中の健兒を假想敵をなし技を練磨する機運を拓いた。更らに萬朝報社は全國專門學校對抗の大會を創始して、後年のインタカレッヂの先驅を爲した。

斯くして一時中等校選手に壓倒され氣味の専門校級學徒の復興を促した爲め、明大の和久山修二、鈴木傳明、早大の小高加茂、清水吉之助、拓大の小野田一雄等の嘗て中學時代に鳴らした選手の進路は洋々たるものがあつた。一方茨木中學の躍進は斯界の驚異にして入谷石田のほか上田治、坂倉巖、高石勝男、田中慶雄、木村義孝等毫雲の如く、關東の安房中學と共に東西の双壁であつた。

要するに本年度は新進の輩出と専門校級の復活が注目すべく、泳法に於てはまだ過渡期を脱却し得ぬ感みがあた。

◇極東代表選手豫選會 (10年5—4.5三笠園)

扇足時代を代表する内田齋藤則末平野は引退し、殆んど新進の獨壇場となつた。決勝の成績は

50米 (豫選 31.2小野田)

- (1) 小野田一雄(拓大) 32.2
- (2) 和久山修二(明大) 33.0
- (3) 小高 加茂(早大) 33.0
- (4) 佐野勝太郎(慶應) 33.2

豫選に於て 31.8の浅田斐彦と田邊中學愛須林三は惜敗した。

100米 (豫選 1:16.0和田)

- (1) 小高 加茂(早大) 1:16.2
- (2) 和田 次衛(横商出) 1:17.8
- (3) 小野田一雄(拓大) 1:19.0

四着以下松澤一鶴浅田斐彦福原喜一及び愛須林三佐野勝太。

400米 (豫選 6:37.4小野田)

- (1) 小野田一雄(拓大) 6:39.2
- (2) 羽根田梅太郎(東京) 6:47.0
- (3) 入谷唯一郎(茨木) 6:50.4
- (4) 松澤 一鶴(一高) 6:50.8

慶應今村榮三及び和中西本龍三池田研三は惜敗。

1500米 (豫選 28:28.6羽根田)

- (1) 松澤 一鶴(一高) 28:36.8

- (2) 羽根田梅太郎(鶴岡出)28:38.0  
 (3) 今村 榮三(慶 應) 29:01.8  
 (4) 池田 研三(和 中) 29:37.4

入谷及び和田は五六着

100米背泳 (豫選1:35.6持永)

- (1) 持永 義崇(長 崎) 1:38.4  
 (2) 入谷唯一郎(茨 中) 1:40.4  
 (3) 齋藤 劍次(愛 知) 1:48.0

以下岡本幸吉石田恒信枝吉彦三長谷川精(愛知)及び中川(青年)野田(神高商)である。

200米平泳 (豫選3:27.2石田)

- (1) 石田 恒信(茨 中) 3:29.4  
 (2) 岡本 幸吉(錦 城) 3:34.6  
 (3) 小野田幸一(和 中) 3:42.0

持永中川及び岩橋計夫(和中)は惜敗。

200米リレー

- (1) 東京キリスト教青年會 2:18.4  
 (和久山、小高、森豊、淺田)  
 (2) 愛知游泳研究會 2:35.6  
 (3) 和歌山中學 2:54.8

以上の如く大接戦に終始したが、五月九日代表選手が決定された 全員十五名である。

- (主將) 和田 次衛(横濱商)小野田一雄(拓 大)  
 小高 加茂(早 大)佐野勝太郎(慶 大)  
 和久山修二(明 大)今村 榮三(慶 大)  
 入谷唯一郎(茨 中)齋藤 劍次(愛一中)  
 岡本 幸吉(田 邊)松澤 一鶴(一 高)  
 羽根田梅太郎(東京)池田 研三(和 中)  
 持永 義崇(長崎商)石田 恒信(茨 中)  
 小野田幸一(和 歌)

◇第五回極東大會(10年5.30—6.4上海1921)

水上競技一般の豫想は日本軍の優勝にあつた、然るに短距離に於て敗れ中長距離に全勝し、平泳に根みを呑み、背泳に石田持永の奮戦甲斐なく、遂に最後の二百碼リレーまで同点といふ瀬戸際に陥つた。併し短距離の不振は此の種目にも勝利の機會に恵まれず、僅々一點の差を以て長蛇を逸したのである。唯中長距離の全勝が痛快であると云へよう。

- |             |       |        |       |
|-------------|-------|--------|-------|
| 50碼         | 1     | 2      | 3     |
| 28.2        | アブレオ  | オーエスガン | 佐野勝太郎 |
| 100碼 大會新記録) |       |        |       |
| 1:04.0      | アブレオ  | オーエスガン | 小野田一雄 |
| 400碼 (大會新)  |       |        |       |
| 6:16.0      | 松澤 一鶴 | 小野田一雄  | 今村 榮三 |
| 1哩 (大會新)    |       |        |       |

1 2 3

27:27.8 羽根田梅太郎 松澤 一鶴 今村 榮三  
 (100碼背泳 (大會新))

1:19.0 フェルナンデス 持永義崇 石田 恒信  
 220碼平泳

3:19.0 フェルナンデス ヴアスコンテ 小野田一雄  
 200碼リレー

1:52.6 比島チーム 日本チーム

得點 優勢 21 比軍 20 日軍 0 支那

◇大毎中等校競泳會(10年8.14濱寺)

大毎主催の例會で全國中學校の名を冠して行はれてゐたが名實伴はず、近畿中心に傾いてゐた、併し此の會が多年關西方面の競泳界啓發に貢献した功は忘れ得ぬところ、年少選手は此處に登龍の門を潜り斯界に送り出されて行く、近來岸和田中學の齋藤巍洋の短距離の進境は著しく、また石田恒雄に依つて代表せられた背泳界に、上田治の擡頭を見るに至り更らに京都同志社中學が乗り出して來た。

50米 30.6 齋藤 巍洋 (岸和田中)

100米 1:15.4 齋藤 巍洋 (同 上)

200米 3:08.4 齋藤 巍洋 (同 上)

400米 6:31.4 桂 正一 (同志社中學)

800米 13:39.4 木村 忠夫 (田邊中學)

100背 1:30.2 上 田 治 (茨木中學)

200平 3:32.6 岩橋 計夫 (和歌山中學)

3000米リレ 53:41.4 田邊中學

翌日全國競泳大會の名の下に行はれた會は全國の名に添はず、唯齋藤選手が五十米に29.8を出し、茨中が八百リレーに12分24秒を出したのが注目を惹いたのみ。

◇戸田水泳大會(10年8.15戸田)

南風強く困難のうちに午後一時四十分開始盛會裡に續行、四時二十分終了した。前年始めて參加して勇名を馳せた茨木中は自由型の入谷を陣頭に新進高石勝男を起用し、背泳平泳に石田の堅壘を誇り、廿二點を獲て連勝の榮冠を荷ひしが、就中高石は八百に於て定評ある能重以下を破つて優勝、また千五百には能重松次の壘に肉迫して三着を占め、更らに背泳にも手を染め石田入谷に次いで三等を占めて友軍の全勝を得た。安房中は能重佐野萬里小路等を以て接戦し十九點を獲て第二位となる、之れに對し濱名灣泳協は小野田力泳にも拘はらず四百に二等を勝ち得しのみ、一高及び高師は昔日の姿なく、唯松澤選手の力戦に殘花一輪の香を止むるのみ。

50米

27.0 淺田 斐彦(東 青) 入谷唯一郎(茨 中)



100米	佐野勝太郎(安房)		
1:08.2	入谷唯一郎(茨中)	浅田 斐彦(東青)	
	佐野勝太郎(安中)		
200米			
3:02.2	松澤 一鶴(一高)	萬里小路通孝(安房)	
	浅 田 東 青)		
400米			
6:45.2	萬里小路通孝(安房)	小野田一雄(濱名)	
	秋 山(安房)		
800米			
13:02.2	高石 勝男(茨中)	安 田(安房)	
	能 重(安房)		

1500米			
		27:21.2	
27:09.2	能重道太郎(安房)	松澤 一鶴(一高)	
	27:32.2		

	高 石(茨中)		
100米背			
1:22.0	石田 恒信(茨中)	入谷唯一郎(茨中)	
	高 石(茨中)		

200米平			
3:25.0	石田 恒雄(茨中)	高 谷(茨中)	
	吉 田(茨中)		

200米リレー			
2:21.2	東京キリスト教青年會	安房中學	
	濱名游協		

800米リレー			
12:44.8	安房中學	東京キリスト	茨木中學

◇濱名灣全國競泳大會(第1回10年8,28,29辨天島)  
大正昭和を通じて濱名湖から巢立つた麒麟兒は枚擧に違かない、國際オリンピック代表選手に選ばれた者だけでも内田正練小野田一雄竹林隆二、また最近では片山兼吉牧野正藏宮崎康二の新鋭を送るに至つた。顧みれば濱名の歴史は榮光に満ちてゐる。

明治34年遠州學友會水泳創設に始まり、翌年學友會と濱松中の對抗競泳、42年濱中濱商掛川中其他東海水泳團の聯合水上大會の創始あり、大正五年堀江耕造内田千尋兩氏に依つて現在の協會成立を見るに至り、7年戸田に遠征以來茲に本年度を迎へたのである、其間内田小野田等の國際的選手を出したが遺憾ながら協會の實力は他に及ばず、茨木中學の驚異的進出に瞠目するのみであつた。茲に於て新たに長さ百米幅三十米の大海水プールを造り本年第一回の大會を催して進路開拓に邁進したのである。

回数	優勝團	得點	日時
(1)	茨木中學	30	大正10.8.28.29
(2)	濱名游協	27	11.8.19.20
(3)	濱名游協	34	12.8.17.18
(4)	濱名游協	29	13.8.16.17
(5)	京都武徳	15	14.8.21.22
(6)	京都武徳	25	15.8.21.22
(7)	濱名游協	20	昭和 2.8.25.26
(8)	濱松一中	33	3.8.25.26
(9)	濱松一中	35	4.8.15.16

第九回以後は一時中絶のかたちであるか一日も早く再開を望むや切なるものがある。

第一回大會の成績  
さて第一日は午前九時より豫選を行ふ、重なる参加團體は濱名のほか茨木中愛知游泳外八團出場選手五十餘名觀衆一萬といふ、早大は棄權す、決勝の成績は

50米	29.2	入谷唯一郎(茨中)
	31.2	齋藤 劍次(愛知)
	31.4	坂倉 巖(茨中)
100米	1:9.0	入谷唯一郎(茨中)
	1:15.4	船木 茂治(濱名)
	1:15.4	浅田 斐彦(愛知)
200米	2:50.8	坂倉 巖(茨中)
	2:58.6	天野 眞治(濱名)
	2:58.6	船木 茂治(濱名)
400米	5:52.4	小野田一雄(濱名)
	6:08.0	浅田 斐彦(愛知)
	6:23.4	天野 身治(濱名)
800米	12:25.6	小野田一雄(濱名)
	12:50.0	松山龍太郎(茨中)
	13:52.2	天野 眞治(濱名)
1500米	25:13.4	小野田一雄(濱名)
	25:13.4	松上龍太郎(茨中)
	28:51.0	小野田一夫(濱名)
100米背泳	1:26.6	石田 恒信(茨中)
	1:31.8	入谷唯一郎(茨中)
	1:39.0	龍藤 劍次(愛知)
200米平泳	3:11.6	石田 恒雄(茨中)
	3:22.2	坂倉 巖(茨中)
	3:52.0	長谷川 精(愛知)
200米リレー	2:11.6	茨木中學
	2:14.0	濱名游協
	2:17.4	愛知游泳
800米リレー	11:36.0	茨木中學
	11:36.0	濱名游協

12:59.4 西遠游泳

得点 30茨木中學 21濱名灣游泳協會

8愛知游泳 1西遠游泳

◇全國専門學校對抗水泳大會

(後に全國學生水上競技大會10年9.10.11調布プール)

中等學校時代の猛者が多數東都に集まつたので萬朝報社は茲に第一回大會を主催して青年學徒の關心を深めた、さらでだに活動が短命と云はれた水泳選手の平均年齢を高めスポーツの健全なる發達に資したもとして時宜に適した企たるを失はない。されば三回目より全國學生聯盟の手に依りてインタカレッジとして更生今日の隆盛を見たのである。

現水上聯盟會長末弘博士審判長として第一日は豫選第二日は決勝に入る、近衛軍樂隊が氣勢を添え午後一時朝香宮殿下の御來臨あり、母校名譽の爲めに熱戦が展開されたのである。

各校の陣容を見るに明大の和久山修二鈴木傳明、森豊及川英雄に對し、早大は小高加茂清水吉之助五味金司大町清を以て當り、一高は松澤一鶴澤田鐵男西本淺男中橋謹二を以て早明の空陣を覗ひ、この間にあつて拓大の小野田一雄、藥專の能重道太郎、長崎高商持永義崇等の古猛者が虎視眈々たるものあり、かくて決勝の成績は

50米 (豫選 29.6和久山)

31.6 小野田一雄(拓) 鈴木傳明(明)  
森 豊(明)

100米

1:10.8 小高加茂(早) 和久山修二(明)  
清水吉之助(早)

200米

2:53.2 松澤一鶴(一高) 鈴木傳明(明)  
及川英雄(明)

400米

6:13.0 小野田一雄(拓) 松澤一鶴(高)  
能重道太郎(藥)

800米

12:52.8 松澤一鶴(一高) 小野田一雄(拓)  
能重道太郎(藥)

100背泳

1:32.0 持永義崇(長崎) 森 豊(明)  
五味金司(早)

200平泳

3:47.0 持永義崇(長崎) 鴨下義次(早)  
和久山修二(明)

400米リレー

5:18.8 明大(森、及川、鈴木、和久山)

早大(小高、五味、清水、大町)

早明の競争めさしく明大は遂に早大を一蹴して凱歌を揚げ、一高拓大は松澤小野田の奮泳ありしも後陣續かず、結局

優勝 16 明大 10 早大 8 一高 8 拓大  
6 長崎商 2 藥專

と云ふ結果となる、400米豫選で松澤小野田岩崎の三選手はクロールを用る能重及び大町は片技手を用る末弘審判長から全般としてまだクロールに習熟せぬためコースを曲げる傾向がある之れは追々正しくなるとして四百米に片技手は最早や時代おくれる感ありと評された。又百米背泳に早大五味が手を水上に出す事なく平泳を裏返した泳法を用ゐて三着併かもエイホウと兩足で水を躍るに至つては今日想像に絶するものがあらう。

◇第六回全國競泳大會(10年9.24.25三笠園)

第一日は折からの雨に氣温低下せるも水温廿三度を下らず午後五時半豫選を終了し、第二日は朝來曇天にして遂に雨となつたが午前十時から決勝を開始する。

小高和久山小野田淺田等の青年會館組と入谷石田上田坂倉等の茨木遠征軍、萬里小路能重土方等の安房組の争覇で、短距離で石毛政信長距離で土方が注目された、また初陣の少年兒玉博は千五百豫選A組で入選し前途を囑望さる。

50米 29.0 (大會新)

(1)淺田 斐彦(東基) (2)吉田 啓吉(茨中)  
(3)坂倉 巖(茨中) (4)石毛 政信(横水)

100米 1:9.0 (豫選1:7.8入谷)

(1)入谷唯一郎(茨中) (2)淺田 斐彦(東基)  
(3)小高 加茂(東基) (4)和久山修二(東基)

400米 6:07.0 (豫選6:06.2小野田)

(1)小野田一雄(東基) (2)萬里小路通孝(安房)  
(3)秋山 重太(安房) (4)石毛 政信(横水)

800米 12:58.8

(1)小野田一雄(東基) (2)萬里小路通孝(安房)  
(3)土方 龍雄(安房) (4)能重道太郎(安房)

1500米 25:51.0 (豫選25:35.8土方)

(1)土方 龍雄(安房) (2)能重道太郎(安房)  
(3)羽根田梅太郎(鶴岡) (4)新川米三郎(有明)

100米背泳 1:28.6 豫選1:28.0石田大會新

(1)石田 恒信(茨中) (2)上田 治(茨中)  
(3)諸隈 忠雄(安房) (4)五味 金司(早大)

200米平泳 3:14.4 (大會新)

(1)石田 恒信(茨中) (2)坂倉 巖(茨中)

(23 頁 ~)



本 聯 盟 主 催 の 概 略  
 水 泳 講 習 會

小 松 崎 三 次

本講習會は昨年まで文部省主催にて行はれて居たのであるけれど、本年は都合により中止する事となつた。然し此の水泳普及、發達に對して努力する事は本聯盟の義務と考へ、七月五日より十三日まで、九日間、明治神宮外苑日本青年館及水泳場に於て本聯盟主催の基に開催する事となつた。

尙本講習會は一般水泳の普及發達を圖り指導者を養成せんとする目的を以て開催せる故に各流派に關係な水泳の基本となり指導に必要なる游泳競泳飛込水球救助法を以て其の種目としたのである。

講習會の種目及講師は次の如し。

- |            |   |
|------------|---|
| 一、本邦水泳界の趨勢 | 末廣嚴太郎   |
| 二、標準泳法     | 石本巳四雄<br>本田 存<br>飯田光太郎<br>小林 榮三<br>原 正一<br>鶴岡 英吉<br>飯田光太郎 |
| 三、水上競技概論   | 小林 榮三   |
| 四、競 泳      | 飯田光太郎   |
| 五、飛 込      | 吉本 祐一   |
| 六、水 球      | 杉田 忠治   |

- 七、初心者教授法
- 八、水泳指導者心得、救助法
- 九、水泳と海軍
- 十、水泳醫事
- 十一、救 急 法
- 十一、水泳豫備運動

- 鶴岡 英吉
- 本田 存
- 太田 實
- 太田 正隆
- 岡本 勁一
- 柳田 亨
- 金子 魁三

外實地演習に助手として

- 西本 秀雄
- 高橋謹四郎
- 小松崎三次
- 渡 邊 延
- 林 正之
- 野知 浩之
- 猿 橋 清
- 大串 泰造
- 森 好 男
- 笹島彦次郎
- 岩切 盛行
- 杉原 雪雄
- 柴田 隆司
- 原 酉三

右講師、助手諸君の熱心なる努力に依り非常に好

成績を上げ得たる事を深く感謝する。

尙十日に神田基督教青年館を見學し、

十一日夜神宮日本青年館に於て座談會及映畫會を開催せり。

又本年より水泳指導員資格證を授與する事となりたる爲、資格試験の標準を左の如く定めたり。

潜水二十五米。クロール百米(一分三十秒以内)

背泳五十米(一分以内)平泳百米(二分以内)

飛込(二米半より)伸泳(判定)立泳(十八米)

右に合格したる者を修業者となし。筆記(口頭)試験指導法及技術の考査を経て指導員となる又上の中特に秀でたる技能を有する者に對しては充分の顧慮を拂ふ事とせり。

本年度講習會に参加せし人員六十三名にして規定の資格試験に合格し指導員となりたる者十五名に及びべり。◎印合格者

◎吉田 勝平【昨年度優秀成績者】

◎佐藤 彌市【同上】

◎福士直次郎【同上】

◎鹽田 粹【同上】

◎鈴木 幸藏【同上】

◎小曾木 宏【同上】

◎平田ふみえ【同上】

◎辻 淳(東京市)

富田 誠(大阪市)

分林 健兒(神奈川縣)

橋本 俊男(山形縣)

宇田川重嗣(東京市)

沖山 光(東京府)

鎌田 俊一(東京市)

古川トヨ子(東京府)

小科 鹿之(静岡縣)

鈴木 佐市(東京府)

◎吉見 俊一(東京市)

◎宮内重次郎(東京市)

近藤 芳一(愛媛縣)

堀内 主税(東京市)

小流 國彦(東京府)

福島 登(横須賀)

◎宮本 榮作(横須賀)

田宮 茂(東京市)

上遠野福夫(東京府)

安田 勘助(東京市)

内藤 徹(東京市)

本間 淳治(横濱市)

一井 梅一(富山縣)

岡本 眞雄(東京府)

佐原 八郎(東京市)

野々垣貞雄(東京府)

◎鈴木 龍馬(東京府)

森本 次男(京都市)

今川忠三郎(京都府)

市村 慶治(東京市)

横山 イト(東京市)

西川 鐵兒(東京市)

日高畝千代(東京府)

稲田 千年(東京市)

佐々木幸徳(東京市)

◎加藤 久(三重縣)

◎今井誠太郎(濱松市)

奈良輪隆吉(東京市)

岩崎重太郎(東京市)

吉村要次郎(東京市)

齋藤 タミ(東京府)

村田 要吉(東京市)

小杉 長平(東京市)

高橋 正子(東京府)

屋嘉部 弘(横濱市)

永見 潮人(東京市)

平井 久(東京府)

◎池内 清(高知縣)

安藤 保(東京府)

宮浦 秀雄(東京市)

湯淺武比古(東京市)

阿曾 俊四(東京市)

小竹 久馬(兵庫縣)

竹村 博之(東京府)

藤森 福(東京市)

山本 藤吉(東京府)

以上六十三名

(21頁より)

(3)吉田 啓吉(茨中) (4)鴨下 義次(早大)  
200米リレー 2:06.2 (大會新)

(1)東京基督教青年會(小高小野田和久山淺田)

(2)茨木中學(坂倉吉田入谷石田)

(3)安房中學(山田黒川石井中野)

4000米リレー 4:49.6 (大會新)

(1)東京基督(小高小野田和久山淺田)

(2)茨木中學(坂倉入谷上田石田)

(3)安房中學(萬里小路中野土方秋山)

(4)横濱水交(岡田石毛外二名) (以下次號)

# 回顧三十有一年

堀江耕造

濱名灣が我が國水泳界殊に競泳に貢獻した所極めて大なるは今更こゝに云ふ迄もない。日本最初のオリンピック水泳選手として内田正練氏を送つたのを初めとして、その後オリンピック大會に、極東大會に常に優秀選手を多數に派遣してある、この記事は本聯盟理事であり、又濱名灣游泳協會にあつて多年水泳の健全なる普及發達に盡されてゐる堀江耕造氏が濱名灣游泳協會の雑誌「光波」創刊號に載せたものを同氏の好意によりこゝに掲載することにした。

## 一、水泳部の生立

濱名灣に於ける水泳部の生立は今日から見ると可なり古いものになつた。學校とか會とかいふ團體を代表する水泳部は忽然として出現した譯ではなく、さういふ氣運に動いて居たのが次第に濃厚になり、遂に明治三十三年の八月、濱松中學校の卒業生及在校生の有志約二十名のものが、濱名灣の西岸新所村の某寺を寄宿舎に當て、濱松高町の基督教講義所の牧師某氏を師範として一夏水泳の練習を行つた。勿論避暑氣分が可なり横溢して居た事は否定することは出来なかつたが、これがとにかく我が地方に於いて水泳を稍組織的に練習した最初のものといへやう。これに味を占めた連中が翌三十四年にもやつたが、其時はあまり振はなかつたらしい。

然し此年には遠州學友會が辨天島に水泳部を開設し、神傳流の辻氏（當時東京帝大農科學生）を聘して、正規の練習をはじめた。これは確に辨天島地方の人々にとつては一大驚異であつた。犬掻とか龜泳とかいふ原始的な泳ぎ方より外には實用的なものはないと確信して居た人々の目には日本古來の流義の教ふる優美な泳法、變化に富み、機に臨み變に應ずる泳法はまだ其年には半ば尊敬に値し、半ば輕侮的であつた。

明治三十五年には濱中水泳部が創立せられた。従つて新所に行はれた有志の水泳練習は解散した。師範は寺崎熊雄氏で、鹽野季彦氏が助手であつた。（兩氏共當時は東大法科の學生であつた。寺崎氏は故人になつたが、鹽野氏は先頃まで檢事正として敏腕を振はれた人である。現今は行刑局長かと思ふ。）なほそれに岩崎眞雄氏（當時東大工科學生）が應援に來られ共に神傳流を教授された。筆者も此時濱中五年級で部員の一人であつた。其當時の濱中校長は中久木信順氏で、教頭末久喜十郎氏が卒先して水泳部の事に盡力した。

一方遠州學友會の水泳部は、水府流の佐藤勸氏（當

時東大法科學生）を師範として第二年を迎へたが、其部員中には當時まだ學生時代であつた河井彌八、奥山萬次郎、長延連、縣忍、柴田善三郎、長谷川鐵雄、鹽崎成男、長谷川巖、桑原虎雄の諸氏をはじめ今日知名の士となつて居る人々が活躍した。

其後學友會水泳部は千葉眞一氏、加福均三氏がそれぞれ數年間宛來島指導し、濱中水泳部は中野次郎、北田正平、高橋敬吉の諸氏を煩はして數年間同水泳部の堅い基礎を作つたが、此の期間に於いて各水泳部員の努力と、師範の熱心な指導とは相俟つて部員の長足の進歩を來たし、濱名一流の足の頑張りを生み出したのである。

この兩部におくれること數年にして濱松商業學校（當時の校長は小原右馬允氏）が水泳部を開設し、神傳流の加藤彌兵衛氏を師範とし、その翌年には掛川中學校（當時の校長は小松倍一氏）が多額の犠牲を拂つて辨天島に水泳部を開設し、同じく神傳流の清水景愛、同督重の兩氏を迎へ、特に景愛氏は齡六十を越へて然もかくしやくとして、古の齋藤實盛を思はしめる元氣を以て青少年を指導した。其後濱商では下田錦四郎氏が數年間師範として指導された。

かやうに四つの水泳部が軒を並べて練習に勵んで居るので、師範の意氣込も、部員の競争心も随分盛んであつた。この頃の猛練習は第一にせり水と稱するもので、辨天島前のあの干潮時の急流に溯つてモリモリ泳がせるのであつた。若し指定通りせり水をしなければラムネ（潮水である。泳ぐ時に泡の立つことから聯想したのである）を御馳走される。飛込の練習には脚立の上から數十回連続に飛ばせるといつたやうな硬教育である。或は水に馴れさせる方法としては龍戰とか水の掛合ひのやうなことをやつた。つまり此時代はスピードのある泳ぎといふよりも水に強い事が必要であり、同時に各種の泳法に巧みであることが必要であつた。

また事務的には各水泳部（遠州學友會を除く）は

學校といふ共通性から三校聯合の開部式閉部式を毎年行つたが、つひには最初各部思ひ思ひに行つた水上運動會を合併して、學友會をも加へた濱名灣聯合水上大會を辨天島で開催すに至つた。この大會は略して聯合大會と呼ばれ、右四つの水泳部が毎年順次に當番で其年の大會の計畫をするのであるが、これを他の部の代表者に計つて決定するのである。大會の内容は模範泳法、應用泳法、餘興、競泳といふやうなものであつたが、會を開催するについての種々なる雜務は各部が分擔することにした。たとへば學友會は會場設備、濱中は番組調製、印刷に關する事務、濱商は會計、掛中は賞品に關する事務といつたやうな工合である。

然しながら聯合大會の眼目は模範泳法と應用泳法にあつたので、この機會に於いて各師範の圓熟した妙技や、部員中優秀なものゝ日頃練磨の手並を世に紹介すべき檜舞臺とするにあつたのである。各師範の中でも千葉氏の飛込及び泳法に於ける鮮なる型、加福氏のステイム・ボート式脚力、北田氏獨特の前鴨後鴨（現に濱中先輩の間に残つて居る）、中野氏の優秀な、また下田氏の堅實な泳風等はまだ今日でも筆者の目に残つて居る。

なほ期間も最初の數年間は一ヶ月であつたので、水泳生活の單調を破るために諸種の行事があつた。其最も大がかりなものは大遠泳であつた。この大遠泳は長きに堪える事に對する練習であり、また同時に各人がおのれの力に對する試金石としたものであつた。

## 二、獨立時代

斯様に四部が軒をならべて練習にはけんで居る内に、歴代の師範及各部當局者の熱心と部員の努力により部員の技倆も著しい進境を見るにいたり、先輩中には相當の年輩のものが出來たので、最早遠來の師範を待つまでもなくやつて行かれるやうになりまた一方各部が隆盛になるにつれ經費もかさんで來たので財政的の方面から見ても其部内の先輩から師範を選抜するのが策として上乘のものであるといふ事になり、明治四十年頃からさういふ傾向が見え、次第に外來師範の跡を絶つやうになつた。

濱中水泳部は筆者が其頃師範を囑託され、大正十一年頃までやつて居たが、其間助手として部のためにつくした人々は、大谷益次郎、中根昇、社本唯三、古山清夫、井上洋之助の諸君をはじめとして、實に多士才々であつた。遠州學友會では桑原虎雄、戸塚龍平、内田千尋、内田正練、内藤英雄（現在は塚本）の諸君が其根柢を作つて今日に傳へて居る。また濱

商は濱中水泳部から派遣した堀江俊策、河野秀吉君により、掛中は戸塚九一郎君が中心となりそれぞれ幾多の名手を出して今日に及んで居る。

この各部が獨立したといふ事實はまた一面他の土地からの希望を入れて、水泳教師を派遣する様になつた事の起因をなして居る。この水泳教師派遣のことについては後に述べる。

處が、外來師範が中心になつて居た頃は規模も小さかつたし、人數も少なかつたので、相互の連絡がよく取れて居たので、泳法の統一もよく行はれて居たが、獨立時代に入つてからは部内の統一は比較的うまく行つたが、各部全體を通じた統一が次第にうまく行かないやうになつて行つた。其原因は種々あらうが、試にこれをあけて見れば

- 一、各部師範間に師範としての連絡がなかつた事。
- 二、統一を計らうとする考より寧ろ互に特殊な型を工夫して異彩を放たうとする傾向があつた事。
- 三、水府流及神傳流が一見酷似して居るので、部員の多數が互に眞似をする傾向があつた事（其流儀を正式に研究するのでもない）。

のやうなのであつたらう。なほ其上に聯合大會の一部として行はれた各部間の競泳が、若い人達の敵愾心を惹起させる役割を演じ、次第に其勝敗の跡を重大視する傾向を生じ、其結果は各部門の反目を促すやうになつてしまつた。

さういふ次第であつたから、心あるものは皆何とかして此状態から各水泳部を救ひ出さなければならぬと思つて居たが、容易にこれに手を出さうとする者いない。また頗る困難な事業でもあつた。遂に内田千尋君によつて一石が投ぜられた。濱名灣游泳協會の創立がこれである。

## 三、濱名灣游泳協會の創立

大正四年の夏の末、水泳シーズンも將に終らうとする頃であつた。内田千尋君が筆者に向つて協會設立の必要を力説して筆者の賛同を求めた。同君の意見としては濱名灣の水泳界を革正するに就いてはなすべき事が頗る多いが、まづ師範としての仕事は

- 一、泳法の統一を計り、濱名灣流といふ名稱のもとに四水泳部をまとめやう。
  - 二、水泳教師の養成に必要な講習會を開催しやう。
  - 三、講習員中から嚴選によつて水泳教師の資格を協會が與へることにしやう。
- といふのがその要點であつた。筆者は大いに賛成し

て翌年を期して實行に着手することにし、翌大正五年第一回講習會を開いた。

會 期 八月十日より十六日まで

會 長 桑 原 楯 雄

講 師 堀江耕造、内田千尋

講 習 生 十 二 名

といふ状況であつた。

この講習會其後教年繼續したが、講習生たるべきものはすべて各水泳部の助手とか、一級位のところであるので、講習期間内に十分な時間が纏つては得られないので、近年は講習會を廢止して、各自の自由な研究に委せ、毎年期日を豫告して資格試験を行ふだけにした。合格者には得業生の稱號を與へ、これを以て水泳教師の資格とした。

ところが此試験についても試験委員が追々變はるにつれて泳法の解釋に關する意見の相違を來たし、受験者が迷惑を蒙ることが少なくなかつたので、大正十五年八月十二日及十四日の兩日にわたり、得業生によつて泳法研究會が催され、次のやうな教目と規約とを制定した。

#### 濱名灣流教目

##### 横 體

一重伸略體	一 重 伸	二 重 伸
二 段 伸	三 段 伸	繼 手 伸
諸 手 伸	拔 手 伸	片 拔 手 一 重 伸
片 拔 手 二 重 伸	片 拔 手	

##### 平 體

兩 輪 伸	平 伸	小 拔 手 略 體
片 手 拔	大 拔 手	諸 手 拔
諸 拔 手		

##### 潜 水

水中一重伸 水中 嬰 伸

##### 特別泳法

クロール・ストロウク	バック・ストロウク
ブレスト・ストロウク	

##### 跳 込

直 跳 順 下 逆 跳 逆 下

##### 應用泳法

手 足 搦

##### 泳法上の規約

##### 一、横 體

イ、略テ首ノ位置ハ水府流一重伸ヲ基本トシテ不自然ナラザルベシ

ロ、手ヲ納ムル位置ハ内腿近クスベシ

ハ、三段伸ニ於ケル上手ハ外腿ニ流スベシ(二重伸ノ如シ)

ニ、繼手伸ハ各インターバル等シキ連續動作ヲ成スベシ

ホ、拔手伸ハ二重伸ノ要領ヲ以テシ拔手ハ伸ヲ取りツ、片拔手一重伸ノ如ク顔面ニ納ムベシ

##### 二、平 體

イ、片手拔及ビ諸手拔ノ拔手ハ腰部ニ於テ拔キソノマ、前方ニ納ムベシ

但シ圓曲ヲ畫カザルコト

ロ、諸手拔ノ繼足ノ數ハ任意トス

##### 三、潜 水

嬰伸繼足ノ數ハ任意トス

この兩日の研究會に席した人々は内田正練君をはじめとして各水泳部の師範及び得業生であつて、まづ神傳流水府流の長所を取りこれを完全に消化して濱名灣流の根幹となし、これに加ふるに水上競技に是非ともなくてはならないクロール其他の泳法を取り入れ、茲にはじめ成文としての濱名灣流を造り上げ統一あるものとしたのである。而してなほ此濱名灣流は時代の進運に伴ひ層一層研究せられ、新しい種目も追加される事であらう。

#### 四、水上競技の方面

協會創立の翌年すなはち大正六年は東京芝浦に第三回極東選手權大會が開かれた年で、日本の代表選手として濱名灣から出場したのが内田正練、鈴木忠藏の兩君であつた。この兩君のため在京の有志の間に後援會が出来たが、兩君が目覺しい活躍をした事により、遠州出身の先輩間に水上競技に對する興味をそゝり、前年創立した協會を一層大規模なものとし、競泳方面の事も加味し、從來内輪喧嘩ばかりして居た各部の猛者を協會の手でまとめて外敵に向つて一致して當らせやうといふことになつた。

抑々濱名灣に於ける競泳の嚆矢といふべきものは明治三十五年八月遠州學友會水泳部と濱中水泳部との間に行はれたものであつた。約五十碼の距離に浮べられた二隻の漁船をスタート及ゴールとして行はれたが、此時兩軍の顔觸は

##### 學 友 會

桑原 虎雄 桐田 賀子治 鹽崎 成男

其 他

##### 濱 中

馬淵 咸藏 佐藤 利彦 堀田 隆平

堀江 耕造 其 他

といふやうな處であつた。泳法は今日の言葉でいへば自由型であつて、何でも自分の得意とするものでよろしいといふ事であつた。學友會の方は一重伸を

用ひる人が多かつたが、濱中の方はまだ流義による泳法では競泳が出来る程度まで進んで居なかつたので、犬掻バタ足といふ頗る原始的な頑張一點張といふ泳法を用ひた。結果は濱中の勝であつた。所が選手間は何等のわだかまりもなかつたのであるが、兩方共其背後の部員運が勝敗に熱中しすぎたため、双方感情の融和を缺くやうになり、はじめはやるつもりであつた第二回戦も中止し、兩部間の競泳其物も當分見合せることにした。それが後に聯合大會がはじまつたので、各部對抗競泳が復活した。然るにまたまた各部間の感情の疎隔を來たしたので、當事者はこれがために悩まされて居たのである。

偕て濱名灣游泳協會もいよいよ内容が充實して來たので、競泳の方面にも力を用ふることになり、前に述べた様に各部の疎隔せる感情を融和させると同時に一致團結して外敵にあたる策を講ずることにした。

その最初の企は大正七年七月三十日戸田灣に於ける東京帝大主催の水上大會と清水灣に於ける静岡民友新聞社主催の競泳大會に選手を派遣した。戸田の方へ長谷川幹事が附添つて行つたが其成績は左の通りであつた。

- 八〇〇米 三着 野寄國太郎 (十九分五十四秒五分ノ一)  
 四〇〇米 二着 齋藤庫太郎 (七分四十秒五分ノ三)  
 一哩 二着 齋藤庫太郎 (三十二分七秒五分ノ二) 四着 野寄國太郎  
 リレー 二着 濱名灣 (二分五十四秒五分ノ一)

清水灣の方は二哩競泳であつたが

學生の部

- 一着 小野田一雄 (五十六分)  
 三着 稻勝正太郎 (一時間二分)  
 四着 高村寅三 (一時間六分二十七秒)  
 五着 林幸一 (一時間七分二十五秒)  
 七着 岸龍雄 (一時間七分三十五秒)

青年の部

- 一着 天野龜太郎 (五十五分二十五秒)  
 三着 牧野敏一 (五十九分)

といふ好成绩であつたが、戸田では一高が優勝した。

大正八年には河井彌八氏が會長、長谷川鐵雄氏が幹事で、會務を執掌した。競泳方面では再び戸田遠征を試み、齋藤庫太郎、山下万造、小野田一雄、野寄國太郎、稻垣正雄、稻勝正太郎、天野眞治、舟木

茂治、岸龍雄、山本憲雄の諸君を選手として、田畑政治君が附添ひ、奮闘したが、八月五日(競泳當日)朝來烈風のため夕刻に至つてやうやく豫選を行ひ五十米で小野田君一着、百米で岸君二番となつたが、翌六日の決勝に於ては

- 五十米 一着 小野田(三十三秒五分ノ二)  
 二百米競泳 三着 天野(六分)  
 百米背泳 一着 小野田(一分五十一秒五分ノ三)

の外に、舟木君は一〇〇米に、また天野君は一哩に於いて僅少の差を以て落選した。此時の參加團體を總得點より順次に示すと

- 二七點 游泳専門學院 一六點 一 高  
 一〇點 安房中學 七點 濱名灣  
 三點 桐葉會 二點 慶應義塾  
 〇點 中央大學、早稻田大學

であつた。

なほ此年は第四回極東大會がマニラに開催せられ内田正練君が出場した。同君がマニラの暑さになやまされた話がある。競泳は液間行はれたがプールの水が暖いので一五〇〇米泳いで仕舞ふや否や氷の柱に抱き付いた等といはれて居る。

大正九年にも戸田に遠征を試み、今年こそは斷然優勝といふ意氣込で田畑君監督のもとに奮戦したが天は未だ濱名灣に恵を與へなかつた。それは全然吾々が期待し得なかつた競泳法を以て彗星の如くに出現した茨木中學のために思はぬ不覺を取つたのである。茨木中學は從來日本古來の泳法を用ひて居たらしいが、杉本傳氏の卓見により競泳を主としてすべての距離にクロールを以て泳ぐ事をはじめ、これをプールに於いてするといふ方法を取つたのである。

クロールといふ泳ぎ方は數年前から日本にも紹介せられて居たが、それは短距離にのみ利用し得べきもの位にしか考へられなかつた。而も百米以上は片拔手一重伸でなければならぬといふ考が吾々を支配して居たのであるが、茨木中學はすべての距離に之を現實に使つて見せたのであるから、慥に當時の水泳界に取つては一大驚異であつた。

然し茨木中學に敗れた事は實によい刺戟を濱名の選手達に與へた。其結果は吾々の競泳に對する態度を一變させた。そして吾々の決心した事はかうである。

第一、明年以後は戸田には行かない。それは多大の費用を出して行つて得る所が少ないことである。

第二、プールを建設する事。今後の競泳は靜水で



行はれ、時間記録が重要なものになるからである。

第三、協會主催の全國競泳大會を開く事。これは競泳界の現状を協會所屬の各水泳部員及び當地方の人々に目撃させるためである。

第四、同大會には日本に於ける知名の水泳團體を招聘すること、就中茨木中學を招聘すること。これはいふまでもなく茨木中學を假想敵國とする考である

なほ此年は第七回萬國オリンピック大會がアントワープに開催された年で、日本の水泳界からはじめて此大會に二名の選手を送つた年である。内田正練君は其一人であつた。

大正十年には長谷川氏の獨力によつて北辨天島の同氏別邸東に長さ百米幅三十米のプールを建設した。而して第一回全國競泳大會が開催された。此の大會が實現するに至つたは勿論上記の如き動機からであり、また長谷川氏の犠牲的援助があつたためであるが、また一方後援者東京日日新聞社及地方人士の熱誠なる支持があつたためであることを忘れてはならない。其時の決勝記録は次の通りである（八月二十九日晴）

#### 五〇米自由型

1. 入谷唯一郎（二九秒二）（茨中）
2. 齋藤 劍次（愛知） 3. 坂倉 巖（茨中）

#### 一〇〇米自由型

1. 入谷唯一郎（一分九秒）（茨中）
2. 舟木 茂治（濱名） 3. 淺田 安雄（愛知）

#### 二〇〇米自由型

1. 坂倉 巖（二分五〇秒八）（茨中）
2. 天野 眞治（濱名） 3. 舟木 茂治（濱名）

#### 四〇〇米自由型

1. 小野田一雄（五分五二秒八）（濱名）
2. 淺田 安雄（愛知） 3. 天野 眞治（濱名）

#### 八〇〇米自由型

1. 小野田一雄（一二分三五秒六）（濱名）
2. 松上龍太郎（茨中） 3. 天野 眞治（濱名）

#### 一六〇〇米自由型

1. 小野田一雄（二五分一三秒四）（濱名）
2. 松上龍太郎（茨中） 3. 小野田一夫（濱名）

#### 一〇〇米背泳

1. 石田 恒信（一分二六秒六）（茨中）
2. 入谷唯一郎（茨中） 3. 齋藤 劍次（愛知）

#### 二〇〇米平泳

1. 石田 恒信（三分一一秒六）（茨中）
2. 坂倉 巖（茨中） 3. 長谷川 精（愛知）

#### 二〇〇米リレー

1. 茨中チーム（二分一秒六）
2. 濱名灣チーム（二分一四秒）
3. 愛知游泳研究會チーム

#### 八〇〇米リレー

1. 茨中チーム（一分三六秒）
2. 濱名灣チーム（一分五八秒）
3. 西遠水泳俱樂部

#### 得 點

茨 中	三〇	濱 名	二一
愛 知	八	西 遠	一

上の如き成績で濱名灣は小野田一雄君が一人で奮闘したが四人の茨中選手のために名をなさしめ、協會からの優勝旗は最初に茨中の名を縫ひ込むことになつた。

この大會には右の外少年、青年の競泳があり、其外立川文夫氏の鮮かなるダイビング數種を見せて貰つた。なほ鈴木佐市君が名アナウンサーとして人に知られるやうになつたのは此頃からである。また小野田一夫といふのは本名は小野田一雄であり、同君は濱松商業學校の生徒であつたが、濱中の小野田一雄君と同姓同名であるため、便宜上協會内だけで雄を夫に改めてある次第である。

この年五月にはなほ上海で第五回極東大會が行はれ、小野田一雄君が出場した。此時には大接戦の結果僅少な差で比軍をして名をなさしめた 日本軍の短所はターンであつた。

大正十一年には役員改選の結果、會長長谷川鐵雄副會長堀江耕造、幹事鈴木忠藏といふ顔觸になり、第二回全國競泳大會を開催した。この年には茨中からは田中慶雄、上田治、高石勝男、木村義孝の諸君が新に加はつて來島し盛んに活躍したが高石君はまだ其銳鋒を十分に示さず、五十米では三着、百米では二着（一分一秒六）といふ成績であつた。武徳會ならば林喜男、桂正一其他の諸君が來たが、林君が一五〇〇米に於いて濱名の小野田君を破つて大番狂はせをやつた。濱名灣の新顔では田中秀吉、磯部勝次、清水實、稻勝英夫、稻務孝、山内辰雄の諸君が奮闘した。

試に前年の記録を破つたものを挙げると

#### 百米自由型

田中 慶雄（一分八秒）（茨中）

#### 二百米自由型

田中 秀吉（二分四十六秒）（濱名）

#### 百米背泳

上 田 治（一分二十二秒八）（茨中）

二百米リレー

濱名チーム(清水、稻勝孝、山内 小野田)(二分五秒二)

八百米リレー

濱名チーム(稻勝英、磯部、小野田、田中)(一分一九秒)

なほ参加團體の得點は左の通りであつた。

濱名 二七 茨中 二一 武徳 八  
濱寺 二 辨天 一 房中 一

かくして茲にはじめて多年の、而も達し得べくして達し得られなかつた希望が遂げられ、言葉に出して表はすことの出来ない喜が、人々の顔面に溢れ濱名灣の風景も今日は一入其美しさを増したやうに思はれた。田畑監督、小野田主將はじめ選手諸君の涙ぐましい努力が報ひられたのである。而も其場の空氣は和やかなもので、茨中の杉本監督の如きは、自校の負けたのも忘れて、心からこの日の濱名チームの成功と其急速なる進歩とを喜んでくれた程である。

なほ此會には筆者が審判長であつたが、特に東京から梅澤親光、飯田光太郎の諸氏を聘して審判の勞を煩はした外に、大毎の京田氏、萬朝の鷺田氏も來島し、この兩社からはレコード賞を、大毎東日から共同の優勝旗を寄贈された。

此秋には調布に於ける日本體協の競技會に出場したが、稻勝英夫君脚氣のため志を得なかつた。この時の濱名のリレーチームは、稻勝、磯部、田中、小野田の諸君であつた。

大正十二年は第六回極東大會に大阪に(五月)行はれた。この大會に出場したの小野田、磯部の兩君にすぎなかつたが、此年は八月にいたつて新進が輩出していよいよ一大水泳王國を確立するに至つた。

第三回全國競泳大會は八月十七日から三日間に渡つて行はれた。

茨中は都合により参加しなかつたが、武徳會、濱寺水練學校、スター・クラブ等が参加した。濱名では小野田主將益々元氣である上に野田一雄君が突如として現はれた事、舞阪小學校の野寄金次郎君が其鋒銜を現はしはじめた事は特筆すべきである。

この大會の新記録は

五〇米豫 小野田 (二八秒六) (濱名)  
百 米 小野田 (一分六秒六) (濱名)  
二 百 米 小野田 (二分三五秒六) (同)  
四 百 米 野 田 (五分三五秒二) (同)  
八 百 米 磯 部 (一二分二三秒四) (同)  
八 百 米 野 田 (一分四七秒六) (濱名)

千五百米 野 田 (二二分五五秒二) (同)

二百米リレー (一分五九秒二)

濱 名 (稻勝英、白都、大場、小野田)

八百米リレー (一〇分四二秒二)

濱 名 (磯部、小野田、大場、野田)

得點は

濱名 三四 スター 一五 武徳 七  
舞小 二 濱寺 二

であつたが、スターから出た人々の内にも西本龍三、石毛政信、齋藤魏洋、高橋辰雄、三倉博、杉田忠治、山崎辰雄の諸君があり、武徳會からは林喜男君をはじめとして、木村象雷、桂正一、村上弘の諸君、濱寺からは藤本秀松君が出場して大いに氣を吐いた。

然し濱名灣は自由型のすべてで其首位を占めた上に、背泳では稻勝兄弟が揃つて一位二位を得、僅に平泳一種目のみに於いて無得點といふ有様であつた。平泳に於いては

一着 杉田 忠治 二着 藤本 秀松  
三着 桂 正一

といふ結果であつた。

この會には八代武治君から二〇〇米優勝者に與へるトロフィーの寄贈があつた。

右の外、この大會には小學校生徒及女子の競泳が行はれた。

八月二十六日には芝プールに於いて全國選手權競泳大會が行はれ、協會關係者の成績は左の通りであつた。

八 百 米 1. 野田 一雄 (一分五〇秒二)

3. 磯部 勝次

百 米 2. 小野田一雄

五 十 米 1. 小野田一雄 (二八秒四)

3. 白都 定義

百米背泳 3. 稻 勝 孝

二 百 米 2. 小野田一雄 3. 磯部 勝治

四 百 米 2. 野田 一雄

八百リレー 1. 濱名灣游泳協會(磯部勝治、野田一雄、大場保治、小野一雄)

右の結果八百リレーに於いては前年稻勝君脚氣により中途にして棄權しなければならなかつたがこの年は見事に優勝することが出来て、今村次吉氏寄贈の大優勝旗を濱名灣の上に翻すことを得た。九月初旬濱松市長谷川氏邸内の庭園で祝勝會を開催した。

大正十三年は第八回萬國オリンピック大會が巴里で行はれた年である。小野田一雄、野田一雄の兩君は日本代表の内に加はり、小野田君は第四回軍の主將として出陣した。

第四回全國競泳大會は右兩選手を抜いて八月十六七の兩日に互つて行はれた。

各種目の第一位を得た人々は左の通りである。天候は晴、強風。

五十米 大場 保治 (三〇秒二) (濱名)  
百 米 磯部 勝治 (一分七秒八) (同)  
二百米 同 上 (二分三七秒六) (同)  
四百米 同 上 (五分四四秒) (同)  
八百米 兒玉 博 (一分五八秒) (御幸)  
千五百米 野寄金次郎 (二分四七秒四) (濱名)  
百米背泳 木村 象雷 (一分二四秒二) (武徳)  
二百米平泳 稻葉 秀三 (三分一九秒) (同)  
二百米リレー 濱 名  
八百米リレー 武徳(木村、小栗、村上、新井)

得點は

濱 名 二九 武徳 二一  
御 幸 七 房 中 二

であつた。

この會では野寄君が小學生の身で、前年の野田君の千五百米の記録を破つた事、兒玉博君、新井信男君の活躍、女子では江島歌子嬢が勝山クラブとして平戸、高橋、五月女の諸嬢が御幸クラブとして出場し、これに對して濱名では小野田、尾崎の二嬢が應戦した。小學校では水野秀藏君が入野から出た。

それから都合上此年から後援者が東京朝日新聞社となり、優勝團體に對して同社からカップが寄贈された。

九月廿三日には第一回明治神宮競技東海豫選を辨天島プールで行つたが其結果東海區を代表した主たる人人は左の通りであつた。

白都定義、磯部勝治、野田一雄、清水實、近藤恒野寄金次郎、齋藤魏洋、岡部政藏、伊藤房吉、淺田安雄、丹羽賢一等

然し本競技ではあまり振はなかつたが、八百米リレーに於いては東海チームは二等賞を得た。其メンバーは磯部勝治、近藤恒、齋藤魏洋、野寄金次郎の四名、で當時の内務大臣若槻禮次郎氏の名で賞状を授興された

なほ此年改選により會長堀江耕造、副會長鈴木忠藏、主任幹事牧野敏一といふ顔觸となり、長谷川氏には顧問を囑託した。

大正十四年の五月にはニマラで第七回極東大會があつた。陸上競技では審判上の問題で大紛擾が起つたが、水上競技には其事なく、競技は進行して日本軍の勝利に歸した。此時濱名から出場したのは小野田一雄、磯部勝治、野田一雄、野寄金次郎の四名で

あつた 就中野寄君は一行中の最少者であつた。

八月には第五回全國競泳大會が十五及十六日に行はれたが、兩日とも天候不良で、曇、雨、大風、豪雨といふ状態の中で競泳は進行し、プールのコンディションが良くなかつたが、猛者連は物ともせず奮闘をつとけ、新井君(武徳)は二百米に於いて、木村君(武徳)は背泳に於いて、野寄君は千五百米豫選に於いて、濱寺チームは二百米リレーに於いて新記録を作つた。

然しこの年は濱名軍振はず、武徳會をして名をなさしめた。然し濱名にとつては大打撃となつたのは寧ろ濱寺チームであつて、それが濱名の得點を著しく少からしめたのが、武徳會を有利に導いたものである。

五十米

1. 白都 定義 (二九秒八) (濱名)
2. 外川 正 (御幸) 安藤 正 (濱名)  
(外川、安藤同着)

百 米

1. 入谷唯一郎 (一分六秒二) (濱寺)
2. 木村 義孝 (濱寺) 3. 野田 一雄 (濱名)

二百米

1. 新井 信男 (二分三五秒二) (武徳)
2. 野田 一雄 (濱名) 3. 佐田 徳平 (愛知)

四百米

1. 新井 信男 (五分四〇秒四) (武徳)
2. 佐田 徳平 (愛知) 3. 野寄金次郎 (濱名)

千五百米

1. 新井 信男 (二分四七秒) (武徳)
2. 野寄金次郎 (濱名) 3. 松上龍太郎 (濱寺)

百米背泳

1. 木村 象雷 (一分二二秒二) (武徳)
2. 寺尾 敏夫 (御幸) 3. 笥 精一郎 (濱名)

二百米平泳

1. 戸田 章 (三分一五秒六) (明大)
2. 三倉 博 (御幸) 3. 稻葉 秀三 (武徳)

二百米リレー

1. 濱 寺 (一分五八秒四)
2. 明 大 3. 武 徳 會

八百米リレー

1. 濱寺(一〇分五一秒六) (齋藤、森、木村、入谷)
2. 濱 名 3. 武徳會

かう見て來ると濱名の敗因が一目でよくわかるであらう。(此回には競技種目から八百米自由型を削除した。)

以下次號

# 世界水泳展望

飯田光太郎

米國 米國メトロポリタン A. A. U. の第一回戶外競技會は57碼競泳池で開かれた。降雨と冷氣の爲めに成績は降下した。

440碼自由形(402.36米)	
1. ゴージョ・フイスター	5:09.6
2. レイモンド・ラザー	5:21.8
3. ラルフ・フラナガン	5:25.4

100碼背泳(100.58米)	
1. ゴージョ・コージャツク	1:12.8
2. レオナード・スペンス	1:21.0

100碼自由形(100.584米)	
1. レイ・タムスン	1:02.0

## 女子の部

110碼自由形	
1. ロバート・スーザン嬢	1:16.2

440碼競泳平泳	
1. トレンツ・ペフトリー嬢	7:21.8

ペフトリー嬢は獨逸系、此記録は米國長水路の記録 7:32.4 を破つて居るが二計時員のみの計時であつたので記録として認められない。

**ワシントン** 米國シアトルのワシントン・アスレチック・A.C.の活躍 クラブ員は同クラブの25碼競泳池に於て下の如き優秀な成績を示した。

女子 100碼背泳	ドーン・ギルソン嬢	1:20.6	世界對記録
100碼自由(91.44米)			

ヘレン・マヂソル嬢 1:01.0

100碼自由 オリヴ・マツキーン嬢 1:11.4

## 男子 800碼自由(731.52米)

ジャック・メヂカ 9:25.2

途中 400米 5:01.0

米此競技會の成績が優秀だつたのでシアトル市は資金を募集して此四人をオリンピック豫選へ送ることとなつた。

## ハワイ

ホノル、に於ける競技會で次の成績が出た。

100碼自由型 1. エドワード・クラブ 0:53.8

2. ショニー・ウッド 0:54.0

200碼平泳 1. アー・コン・パン 3:01.6

**フランス 1000米の新世界記録** フランスのジャン・タリスは五月二十日パリに於て1000米自由型に12:57.6の新世界記録を出した。現記録はアルネ・ホリーの 13:02.0タリスの新記録は、昨年八月牧野正藏が日本選手權に19:52.2で優勝した時の1000米に於けるスプリット・タイム 12:57.6と同一である、牧野のは正式計時でなかつたので世界記録とならなかつたが、之を1000米だけ泳いで出したのであるからあまり偉とするには足りない。然し昨夏の歐洲選手權の時ひどいスランプに陥つて居たのが回復して健闘出来る様になつたのはフランスの爲めに慶賀する。

フランスのイザオンヌ・ゴダル嬢はパリに於ける競技會で200米自由型2:42.0の新記録を出した。現記録は2:45.0

**ハンガリー ハラシーの奮闘**、ハンガリーの長距離第一人者隻脚のオリヴァー・ハラシーはプラハの 33 $\frac{1}{3}$ 米水路に於てチエツコのゲトロイエルと對戦して破れた。ゲトロイエルは5:02.6。然し其後ドイツのドレスデンに於て400米に4:48.5を出したと報ぜられて居る。ドレスデンの水路の長さが不明であるが25米とすれば大體不當のタイムではない。25米水路で400米は折返15回、33 $\frac{1}{3}$ 米水路では11回で、4回の差がある。一回に付1.2秒の得があるとしても 4.8秒速くなるわけであるから4:48.5が出ての不思議ではない。何れにしても50米水路では5:05.0を切ることはむづかしい。

## 800メートルリレー

ブダペストの5 米競泳で行はれた豫選に於て 200米自由型の成績は下の如し。

1. ステファン・バラニー 2:16.0

2. アンドラス・セケリー 2:18.8

3. ラヂスラス・サバドス 2:22.6

4. ルドルフ・ワンニエ 2:23.8

合計 800米9:21.8。 平均 2:20.4

ハンガリーの教育省では同國水泳選手がオリンピックへの途次本年七月上旬米國ニューヨーク市に於てニューヨークA.C.と行ふ400碼リレー(4×100碼)に出すべき美事な賞盃を米國A.A.U.に寄贈した。

## ハンガリー記録破る。

ハンガリー、ブダペストの50米水路に於て次の三新記録が出た。

800米自由型	オリグアール・ハラシー	11:05.8
1000米 同 同		13:47.6
200米背泳	アルバド・ピツカイ	2:47.0

## 歐洲女流の躍進

女子自由型100米の歐洲記録1:09.8は最近二回破られた。ハンガリーのマグダ・レンカイ嬢はイタリーのローマの50米水路で1:09.6を出し、佛のイヴオンヌ・ゴダル嬢はパリーの33<sup>1</sup>/<sub>3</sub>米競泳池で1:09.4を出した。女子自由型の第一人者と云はれて居る米國のヘレン・マテソンは昨年戶外選手権で1:09.4本年七月十五日ロングアイランドで舉行された米國豫選に1:09.2であるからオリンピックに於ける女子100米の争覇は中々面白くなつて來た。

**ノールウェー** ノールウェー・オスローに於てカールセンは200米背泳に2:47.2の新記録を出した。

**ドイツ** ドイツの有力なオリムピック選手候補ツータス及びダイタースの兩人が50米競泳池で下の成績を出した。

200米平泳	エルキン・ツータス	2:51.8
400米自由型	ライムント・ダイタース	5:11.6

**英國 女子背泳の新世界記録** 英國のオリムピック選手フリス・ハーチング嬢は既にパリー・アムステルダム兩回のオリムピアドに出場して本年24年であるが近來益々強豪となつて最近リヴァプールの25碼泳池に於て100米背泳にの新世界記録を出した。濠洲のホニー・ミーリング嬢の保持して居る現在の世界記録は1:20.6は50碼水路で作られたもので、折返2回、ハーチングのは折返4回であるから、50米水路に折返1回に換算すると兩者共1:21.6位となつて殆優劣がない。

**スペイン兄弟オリムピック不参加** 米國に居住して米國の選手権競技で大に活躍して居るナルター及びレオナード・スペイン兄弟は英領ギアナ生れであるので兄のナルターは前回カナダから出場したが今回のオリムピアドには用務の都合でカナダへ行けないさうであるから大會に出場するかどうか疑問となつて居た處最近田畑事務理事が米國豫選視察に行つた時米軍の監督キツフアス氏よりスペインはカナダのオリムピック・チームへ入れられないことになつたとの話があつたと電報で報ぜられて居る。強敵が一人でも欠けるだけ優勝すべき日本軍に取つて甚だ残念な事である。

**フィリッピンの平泳** フィリッピンのオリムピック豫選でジキルム・アジャルデンは200米平泳に2:47.0を出した。水路25米。50米水路にすると2:51—52であらう。

**ニュージーランド** ニュージーランドのエナ・ストックリー嬢はマンリーの55碼競泳池に於ける100米競泳に1:12.4を出して今春メルホーンのフランセス・アルト嬢の作つた1:12.6の濠洲記録を破つた。

**新電氣時計** 電氣時計と活動寫眞とを組合せた新電氣時計はスローモーションで終結の状況を撮影するのみならず<sup>1</sup>/<sub>100</sub>秒の差を明瞭に示すものでオリムピック大會中

ロサンゼルスで開かれる國際陸上競技聯盟總會に提出される筈である。

## 編輯後記

昨年迄文部省主催の下に開催された水泳指導者講習會は、今年から本聯盟が主催して去る七月初め行つた。本聯盟關係諸氏のアマチュア的奉仕により、成功裡に終つた。

小松崎氏の記事を参照されたし。

第十三號が正に出でんとするに當り、ロサンゼルスからは我水泳チームの捷報が續々來る。我が編輯部もこの秋はオリムピック優勝號の編輯に多忙であらう事を思へば胸が躍る。

堀江耕造氏が「回顧三十有一年」を御投稿下されました。市村氏の「競泳發達史」と共に得難い文獻として御熟讀あらんことを。

オリムピック選手消息片々は大部分は諸新聞に出た事であるが、まとまつたスクラップとして年の經つと共に参考になりはしないかと思つて載せました

尙飯田氏から「オリムピック第二次豫選概評」と題する記事を戴きましたが、出版迄に間に合はず、甚だ失禮ですが、この貴重な記事は次號に體裁をかへてでも載せたいと思ひます。飯田氏に御わび申上げます。

酷暑の候購讀者諸君の御健康を祈る。

日本水上競技聯盟機關雜誌 水泳 第十三號

定價三十錢 一年六回隔月發行

豫約申込者に限り販布す (一年前金豫約は送料不要)

廣告料 十圓乃至三十五圓

御申込次第詳細回答

昭和七年八月九日納本

昭和七年八月十一日發行

編輯兼發行人 鶴岡英吉 (日本水上競技聯盟代表)

印刷者 君島潔

印刷所 共同印刷株式會社

東京市小石川區久堅町一〇八

發行並所 東京市四谷區神宮外苑プール 日本水上競技聯盟編輯事務所 振替貯金東京三九九一九番

# 水泳は正しき指導に依る

日本水上競技聯盟編 (新刊)

四六判美装 挿繪一〇〇個 價一、八〇 送一四

## 水泳指導要項

執筆者

石本巳四雄 飯田光太郎 杉本澤一 松澤正一 原崎保正 水谷泰夫 吉本祐一 杉田忠治 太田正隆 岡田亨 柳田

見ずや！海の彼方ロサンゼルスの特設プールでは、吾等の代表達が世界記録を破り、メーンマスト高く日章旗が掲揚さるゝ光景を！日本の水泳が茲數年間に驚ろくべき發達をとげ今や世界に覇を唱ふる事が出来た。さうした實力を敢てした裏には目間苦しい聯盟當事者、コーチ諸氏の苦心が秘められてある。

今、日本水泳界の巨匠達がその得意とする専門の秘術を公にされたのが本書である。識者が水のバイブルだと激賞し、實際競技者はこれこそ信じ得べき水泳の原書だと感激してゐる。本書こそは新らしき標準泳法を知らんとする人、指導者、學校當事者の必備すべき名著である。

### 次 目

標準泳法……………	救助法……………	飛込……………
泳法種目及び説明……………	水泳場所選定……………	水球……………
水泳指導員檢定標準……………	水上競技の概況……………	水泳醫事……………
水泳教授法……………	競泳……………	急救處置……………
		水泳補助運動……………

佐藤三郎氏著

訂改

水

泳

(第十三版)

四六判 價一、八〇 送二

宮畑彦氏著

クロールカード

(第六版)

三五判 價一、五〇 送二

東京 神田 甲南 町賀 九〇八 日 黒 書 店

發 賣